

科目名	権利擁護と成年後見制度		
担当教員名	田中 満枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は社会福祉士の受験科目のひとつです。介護保険の制度と両輪の輪として制定された成年後見制度は契約時代における新たな権利擁護の制度として非常に重要な役割を担っています。

科目の概要

成年後見制度の概要・成年後見制度利用支援事業・成年後見制度に係る組織・団体の役割と実際を理解します。また成年後見制度との関連法（憲法、民法、行政法等）についても理解します。さらにこの制度の周辺や制度を支えている人々や機関について学びます。

学修目標（＝到達目標）

- ・成年後見制度の概略を学ぶ（制度の概要・関連機関・利用の流れ・利用の実際事例など）
- ・成年後見制度を支えている関連法（憲法・民法など）を学ぶ
- ・その他の権利擁護に関する制度や相談機関等について理解する

内容	
1	権利擁護にかかわる相談援助を学ぶために(第1章第1節)
2	日本国憲法と私たちの暮らしを理解する(第1章第2節)
3	成年後見制度の3つの類型(成年後見・保佐・補助)について(第2章第1節～第3節)
4	成年後見制度を利用するまでの道筋を学ぶ(第2章第4節)
5	成年後見人を自分が選び契約する任意後見制度について(第2章第5節)
6	成年後見人としての義務と責任について学習する(第2章第6節・第7節)
7	成年後見制度に関わる団体や専門職がどのように権利擁護に関わっているかを学ぶ(第5章)
8	権利擁護に携わっている先輩(社会福祉士)の活動の実際(について理解する第6章)
9	エピソードで学ぶ成年後見人等の事例をとおした成年後見制度の実際を学ぶ(第7章)
10	相談援助と法律(憲法や行政法等)との関係を理解する(第1章第1～3節)
11	家族、財産等について暮らしの中の民法を理解する(第1章第4節)
12	相談援助に必要な社会福祉関連法の復習をする(第1章第5節)
13	成年後見制度周辺の制度(日常生活自立支援事業等)を理解する(第3章・第4章)
14	まとめ
15	総復習

評価

学習到達度テスト 14講目 5択テスト200問 成績評価 50%

小レポート 2題 (8講目～10講目までに課題を指示) 成績評価 22%

授業時の課題、宿題など (10分程度) 成績評価28%

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストの該当箇所を読む

【事後学修】授業時のプリントやテキスト、資料、講義内容を復習し理解する

【その他】配布のプリントは復習用に保管し、繰り返しの学習に利用する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座 第19巻「権利擁護と成年後見制度」中央法規 ￥2,200(税別) 最新版を使用しますので価格変更の可能性あり

【参考図書】・社会福祉士池田恵理子 池田後見支援ネット編 「エピソードで学ぶ成年後見人 身上監護の実際と後見活動の視点」民事法研究会 ￥1,400(税別)

・他の授業等で使用する小6法(民法が含まれているもの)は毎回持参してください。

科目名	心理学理論と心理的支援		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格/介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[科目の性格・概要]:以下の4点を軸に、日常生活で起きうる出来事を科学的に理解する講義です。

心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。

人の成長・発達と心理との関係について理解する。

日常生活とこころの健康との関係について理解する。

心理学支援の方法と実際について理解する。

[学修目標]

社会福祉・介護福祉の専門職として必要な心理学理論と心理学支援の方法について修得する。

[キーワード]

人の心理学的理解、人の成長・発達と心理、日常生活と心の健康、心理学的支援の方法と実際

内容	
1	はじめに オリエンテーション
2	人の心理学的理解(1):生物学的基礎、行動のメカニズム(欲求と動機づけ)
3	人の心理学的理解(2):情動・情緒(ゆれる気持ちを考える)
4	人の心理学的理解(3):学習のメカニズム(学習の法則、条件付け、洞察学習、モデリング)
5	人の心理学的理解(4):個人差の理解(性格・人格・深層心理)
6	人の心理学的理解(5):集団行動、社会的適応
7	人の成長・発達と心理(1):発達段階とその心理的特質
8	人の成長・発達と心理(2):各発達段階で乗り越えるべき課題
9	日常生活とこころの健康(1):心と身体の健康度
10	日常生活とこころの健康(2):心と精神の健康度
11	心理的支援の方法と実際(1):心理査定の概要(観察・面接・検査)
12	心理的支援の方法と実際(2):心理療法の概要(各種心理療法について)
13	心理的支援の方法と実際(3):カウンセリングの技法(きく技術の基礎と応用)
14	心理的支援の方法と実際(4):カウンセリングの理論(各種カウンセリング理論の紹介)
15	おわりに まとめ

評価

平常点(通常講義内のミニレポート)30点、筆記試験(期末試験)70点、で60点以上で合格とします。なお、合格点に満たない場合は、再試をおこないます。また、公欠・忌引き・交通機関の遅延運休等の場合は、追試をおこないません。

授業外学習

【事前予習】当該週の内容に応じた、テキスト内容を読んでおく。

【事後学修】講義内で解説された内容・プリント・テキスト内容の統合をしておく。不明点は、質問する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤伸司・山口利勝 編著『心理学理論と心理的支援[第2版]』ミネルヴァ書房

【推薦図書】講義内で随時紹介します

【参考図書】霜山徳璽 監修『心理療法を学ぶ』有斐閣選書

水島恵一・岡堂哲雄・田畑 治 著『カウンセリングを学ぶ』有斐閣選書

中村 有 著『イラストとケースでわかる やさしくできる傾聴』秀和システム

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、主に社会保障の全体 (基本) を学ぶものである。社会福祉士指定科目でもある。

講義では、社会保障の意義・目的・機能、社会保障の歴史 (国内及び諸外国の動向)、負担と給付のあり方、社会保障制度改革の意味や方向性といった事がらを順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 現代社会における社会保障制度の課題 (少子高齢化と社会保障の関係を含む) について理解することができる。 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程を含めて理解することができる。 社会保障制度の体系と概要について理解することができる。

内容

[授業計画]

1	社会保障をとらえる視点
2	社会保障とは何か - 理念と目的
3	社会保障とは何か - 範囲と役割、機能
4	社会保障制度体系とは
5	社会保障度の歴史的展開 (諸外国)
6	社会保障度の歴史的展開 (諸外国つづき)
7	社会保障の歴史的展開 (日本)
8	社会保障の歴史的展開 (日本つづき)
9	社会保障の財源問題をどう考えるか
10	社会保障制度の現状と課題 (諸外国)
11	社会保障制度の現状と課題 (諸外国つづき)
12	日本における社会保障制度の現状と課題 (サービス体系)
13	社会保障制度改革の方向性と課題
14	福祉レジームモデルから社会保障政策の在り方を考える
15	授業のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

授業外学習

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所を通読

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト】阿部裕二編 『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス 第4版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	生活学概論		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、人間生活学部で学ぶすべての科目の基礎となる理論を説くものである。

人間としての生活を考えるうえで、生活の諸相である衣生活・食生活・住生活・家族と家庭生活などについて学ぶことは、よりよい人生を過ごすために大切である。特にこの科目では、高齢期の生活にも重点をおき、問題点や課題などを見いだし認識を深める。これらを通して、日常の生活を充実させていくための総合的な視点と思考力を養い、実践できるようにする。授業形態は、講義を中心とするが、視聴覚機器や標本などを用いて現実の生活を想起させ、興味・関心を深めながら進めていく。

学修目標は次の通りである。

生活学概論の基礎的な知識と理論が理解できたか。

生活学概論を学ぶ方法論が身についたか。

他の科目と総合し、学問的な態度をもって実践することができるか。

内容	
1	ガイダンス（科目の学び方とその視点）
2	被服の起源と役割 被服材料と被服管理
3	人体形態の把握と既製服サイズシステム
4	高齢者と障害者の被服
5	食生活と健康 栄養素の働き
6	食品の安全性
7	高齢期の食生活
8	家族と家庭生活 生活設計
9	家事労働と介護労働
10	消費者教育
11	高齢者と家族関係
12	住まいの役割と機能
13	生活行動と住まいのかたち 快適で安全な住まい
14	高齢者と障害者の住まい
15	まとめ（理論の実践化にむけて）

評価

平常点・課題40%、試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

2/3以上出席することで評価を受けられ、合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】衣生活・食生活・住生活・家族と家庭生活に興味や関心を持ち、ニュース・新聞・インターネットなどから情

報を集め視野を広げる。

【事後学修】資料を精読しまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する。

科目名	社会福祉の歴史		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間福祉学科専門科目であり、社会福祉基礎科目である。

1. 社会福祉をめぐる日本及び欧米の歴史について学び、さらに社会福祉の理念と意義について理解する。
2. 社会福祉に影響を及ぼした人物・思想・実践を紹介し、現在に継承されている思想・実践について学ぶ。
3. 適宜、タイムリーな話題、事例を引用して身近な内容とする。

1. 社会福祉をめぐる動向について理解し、歴史上重要な事項の概略を述べることができる。
2. 社会福祉に影響を及ぼした人物の内、興味ある人物について説明することができる。

内容		
1	オリエンテーション	社会福祉の歴史を学ぶ意義について
2	現代社会と社会福祉	社会福祉の概念、範囲について
3	社会福祉の歴史：日本 1	日本における前近代の状況について
4	社会福祉の歴史：日本 2	日本における近代の状況について
5	社会福祉の歴史：日本 3	人物・思想・実践（前近代・近代）
6	社会福祉の歴史：日本 4	日本における近代から戦後にかけての状況について
7	社会福祉の歴史：日本 5	日本における戦後から現在に至る状況について
8	社会福祉の歴史：日本 6	人物・思想・実践（近代から戦後）
9	社会福祉の歴史：西洋 1	西洋における前近代から近代の状況について
10	社会福祉の歴史：西洋 2	人物・思想・実践（前近代・近代）
11	社会福祉の歴史：西洋 3	西洋における前近代から近代の状況について
12	社会福祉の歴史：日本と西洋	人物・思想・実践のまとめ グループ討議
13	興味ある歴史上の人物の紹介・グループ発表	
14	授業全体の振り返り	
15	まとめ	

評価

筆記試験（60点）レポート（20点）発表（10点）授業態度（10点）とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合にはレポート提出を行う。

授業外学習

【事前予習】事前にテキストに目を通しておくこと

【事後学修】ノートを整理し授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 よくわかる社会福祉の歴史 ミネルヴァ書房

【推薦書】 【参考図書】 随時紹介する

科目名	養護原理		
担当教員名	福田 智雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、社会福祉士を目指す人や子どもの相談機関、児童福祉施設等で働くことを目指している方に基礎となる科目である。また、一方で、初めて社会的養護を学ぶ方にも理解できる内容ともなっている。

科目の概要

家族のもとで暮らせない子どもたちの現状とその課題をテキスト、配布資料、視聴覚資料等を利用して講義する。

学修目標（＝到達目標）

家族と一緒に暮らせない子どもたちや家族の置かれた環境を理解できる。子どもたちや家族に対する援助者となる心構えができる。

内容

1	はじめに、社会的養護とそれに関連する言葉
2	現代社会に暮らす子どもと家庭
3	子どもの権利
4	子どもの養護の歴史
5	社会的養護の体系：家庭・施設・里親
6	社会的養護の制度
7	施設養護の特質
8	施設養護の基本原理
9	施設養護の実際：日常生活及び自立支援
10	施設養護の実際：治療的・支援的援助
11	施設養護の実際：親子・地域との関係調整
12	社会的養護とソーシャルワーク
13	児童福祉施設の運営管理
14	社会的養護のあるべき姿へ
15	まとめ

評価

授業への参加度40点、試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】新聞等を日頃読んでいただいたほうが理解しやすい。

【事後学修】各回ごとに前回の復習を期待する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山縣文治、小池由佳編著「社会的養護」ミネルヴァ書房

【推薦書】授業内で紹介する。

【参考図書】授業内で紹介する。

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークの理論と方法について学習する。社会福祉士受験資格取得のための指定科目でもある。システム論および生態学理論のモデルによってソーシャルワークを理解する。相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。システム論および生態学理論モデルによってソーシャルワークの一般的な定義を説明することができる。ソーシャルワークにおける3つの実践モデルをはじめ、各所アプローチの概要について説明することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	一般システム理論と生態学モデル
3	システム理論と家族療法
4	ソーシャルワークにおける3つの実践モデル
5	様々な実践モデルとアプローチ: 心理社会的アプローチ
6	精神分析理論について
7	様々な実践モデルとアプローチ: 機能的アプローチ
8	様々な実践モデルとアプローチ: 問題解決アプローチ
9	様々な実践モデルとアプローチ: 行動変容アプローチ
10	様々な実践モデルとアプローチ: 課題中心アプローチ
11	様々な実践モデルとアプローチ: エンパワメントアプローチ
12	様々な実践モデルとアプローチ: ナラティブアプローチ
13	相談援助における専門的援助関係: 感情転移と逆転移
14	相談援助における専門的援助関係: 自己覚知、自己の活用とスーパービジョン
15	まとめ

評価

中間試験30点、授業中のミニワーク40点、最終試験30点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】ソーシャルワーク論 で学習した専門的援助関係について確認すること。

【事後学修】相談面接の基本技術、ソーシャルワークの各理論モデルについて確認すること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】『ソーシャルワークの理論と方法 』(株)みらい 2010

その他授業中に指示。

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目の1つ「相談援助の理論と方法」である。「ソーシャルワーク論 から 」を踏まえて本科目を理解する必要があり、「相談援助演習 」との関連性がある。

科目の概要

1. 相談援助におけるアウトリーチ
2. 集団を活用した相談援助(グループワーク)
3. 社会資源の活用・調整・開発や多職種・多機関との連携を含むネットワーキング

学修目標 (=到達目標)

1. 相談援助におけるアウトリーチについて理解する。
2. 集団を活用した相談援助について理解する。
3. 社会資源の活用・調整・開発や多職種・多機関との連携を含むネットワーキングについて理解する。

内容

1	地域福祉の推進に向けたソーシャルワーク
2	多職種連携によるソーシャルワークの必要性
3	アウトリーチの意義と目的
4	アウトリーチの方法と留意点
5	グループを活用した相談援助
6	グループワークの展開過程
7	自助グループを活用した相談援助
8	コーディネーションとネットワーキングについて
9	ソーシャルサポートネットワークについて
10	地域ケアシステムについて
11	相談援助における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的
12	相談援助における社会資源の活用・調整・開発の方法と留意点
13	ソーシャルアクションについて
14	事例に基づくサービス開発の展開方法について
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等20%、レポート30%と、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】これまで学修した地域福祉論とソーシャルワーク論の内容を復習すること。

【事後学修】授業で示される図書、ホームページ、法律や政策、ソーシャルワーク実践方法、専門用語について各自で更に理解を深められるよう努力する。次回に向けて指示された事前学習は必ず取り組む努力をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

これまで学んだソーシャルワーク論 ～ をもとに、実践場面におけるソーシャルワークについて事例を通して学ぶ科目である。

科目の概要

スーパービジョン、個人情報保護、情報通信技術の活用、権利擁護活動の意味や意義を理解した上で、具体的事例検討を通して、ソーシャルワーク論の総合的な学修をする。

学修目標（＝到達目標）

- ・スーパービジョン、福祉における情報、権利擁護活動の意味や意義を説明することができる。
- ・困難事例の支援過程をソーシャルワークの理論と方法を活用して考えることができる。

内容	
1	オリエンテーション
2	福祉と情報（情報の特性、プライバシーと情報共有）
3	福祉と情報（守秘義務、個人情報保護法）
4	福祉と情報（記録の方法と意義、ICT化）
5	スーパービジョン
6	支援困難事例（支援困難事例とは何か、問題解決の思考）
7	支援困難事例の検討
8	支援困難事例の検討
9	支援困難事例の検討
10	支援困難事例の検討
11	支援困難事例の検討
12	権利擁護活動の意味、意義と実際
13	権利擁護活動の意味、意義と実際
14	権利擁護活動の意味、意義と実際
15	まとめ

評価

ワークシート・小テスト（60点）、最終レポート（40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】新聞や雑誌、インターネット等で、各授業テーマに関する記事等を読み、その背景について考えること

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ソーシャルワーク論 ・ で使用した教科書

科目名	福祉行財政と福祉計画		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格の取得に必要な科目で、社会福祉政策の中において特に福祉行財政と福祉計画の全体像を学ぶものである。社会福祉概論 ・ を学んだ上での授業展開内容であり、また社会保障論 ・ 、地域福祉の理論と方法、高齢者に対する支援と介護保険制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度、児童・家庭福祉論、保健医療サービス論といった科目に関連がある。なお、本科目は社会福祉士指定科目でもある。

講義では、福祉行政の意味・役割、国と地方の関係性（地方分権）、福祉行政機関、専門職配置、国及び地方における福祉財政、様々な福祉計画（国・都道府県・市町村）の概要、福祉計画の策定・実施・評価の過程といった事からについて順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。福祉行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解することができる。福祉行財政の実際について理解することができる。福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解することができる。

内容

[授業計画]

1	「福祉行財政と福祉計画」をとらえる視点
2	福祉の法制度 - 憲法を中心とした福祉の法的枠組み
3	福祉行政の実施体制 - 国レベル
4	福祉行政の実施体制 - 都道府県、市町村（区）レベル
5	社会福祉と地方自治、地方分権一括法の意味 - 法定受託事務、自治事務
6	自治体における社会福祉の行政機関 - 法的根拠と主な業務
7	自治体における社会福祉の行政機関 - 主な業務と専門職配置
8	福祉財政 - 国家財政（社会保障関係費）
9	福祉財政 - 地方財政（民生費）
10	福祉財源問題をどうとらえるか
11	福祉計画 - 必要とされた時代背景
12	福祉計画 - 国の基本計画
13	福祉計画 - 自治体における福祉計画、地域福祉計画、老人福祉計画、介護保険事業計画等
14	福祉計画 - 自治体における福祉計画、障害者計画、障害福祉計画、次世代育成支援行動計画等
15	福祉計画の策定過程、授業のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には、再レポートを提出してもらう。

授業外学習

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト】池村正道編『福祉行財政と福祉計画 - 社会福祉行財政・福祉計画 第3版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	公的扶助論		
担当教員名	長友 祐三		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

社会福祉士国家試験の受験資格を得るために履修を必要とする科目のひとつ。

科目の概要

公的扶助は社会保障制度のひとつで社会保険とともに国民の所得保障機能を担うものであり、生活保護制度がこれに該当する。生活保護制度は所得補償と併せて自立を支援するという社会福祉的機能も有しており、すべての国民の健康と文化的な最低限度の生活を保障する最後のセーフティネットと言われている。

学修目標（＝到達目標）

貧困・低所得者問題の最近の動向について理解する。貧困・低所得者対策について、その概念、歴史、法制度、さらには他職種連携をふまえた相談援助活動についてを学ぶ。公的扶助制度の中心となる生活保護制度の基本的な原理、原則を理解するとともに、最低生活保障における給付とサービスとは何かを理解する。

内容

1	公的扶助の概念
2	貧困・低所得問題と社会的排除
3	公的扶助制度の海外の歴史・日本の歴史
4	貧困・低所得対策の近年の動向
5	生活保護法の目的、基本原理、原則
6	生活保護の種類と内容
7	生活保護制度の保護施設、被保護者の権利と義務
8	最低生活保障の基準の考え方と実際
9	生活保護の動向
10	その他の低所得者対策
11	ホームレス支援の実際
12	生活保護の実施体制と福祉事務所
13	貧困低所得に対する相談援助活動
14	生活保護における自立支援
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、学期末のレポート50%、途中の小レポート20%の割合を評価基準とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前にテキストを参照のうえ、授業に参加してください。また、日頃から貧困・低所得 問題に関連する新

聞記事やニュース等について関心をもつようにしてください。

【事後学修】テキストを読み返して、確かな知識として修得するようにしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】新・社会福祉士養成講座第16巻 低所得者に対する支援と生活保護制度

【推薦書】新刊「貧困大国アメリカ」岩波新書

【参考図書】授業時に紹介します。

科目名	保健医療サービス論		
担当教員名	高橋 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、相談援助において必要となる医療保険制度や保健医療サービスについて学ぶ科目です。社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の共通科目になっています。

科目の概要

医療と保健サービスの供給システムをめぐる枠組みを保健医療福祉政策の動向などから把握し、患者を主体的に、包括的に支援するために求められる各専門職の役割と連携などについて学びます。

学修目標（＝到達目標）

1. 医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）と保健医療サービスの基本的な知識が得られる。
2. 包括的な保険医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種連携について理解できる。

内容	
1	オリエンテーション
2	保健医療と法制度の歴史(1)
3	保健医療と法制度の歴史(2)
4	医療保険の法制度と現状、課題(1)
5	医療保険の法制度と現状、課題(2)
6	診療報酬制度の概要と課題(1)
7	診療報酬制度の概要と課題(2)
8	保健医療福祉政策の概要
9	まとめ
10	各専門職の役割と機能分担
11	各専門職の機能と連携
12	患者、家族、地域など非専門職との連携(1)
13	患者、家族、地域など非専門職との連携(2)
14	保健医療と福祉との連携の状況
15	まとめ

評価

平常点（1割）、中間レポート（4割）、期末テスト（5割）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】厚生労働省のホームページ（<http://www.mhlw.go.jp>）に掲載されている「我が国の医

療保険について」を読んでください。

【事後学修】講義で学んだ医療保険制度・保健医療サービスの概要から、自分や自分の住んでいる地域の場合を照らし合わせることで、より現実的に内容を理解してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】福祉臨床シリーズ編集委員会編、佐久間淳・幡山久美子責任編集(2013) 『保健医療サービス』<第2版>弘文堂

【参考図書】教室で紹介します。

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格の取得に必要な科目で、主に社会保険制度の全体と個別内容を学ぶものである。社会保障論 を学んだ上での授業展開内容であり、社会福祉士指定科目でもある。

講義では、社会保険の意味・特色・体系、年金保険、医療保険、雇用保険、労働者災害補償保険、介護保険の制度的特徴とその問題点を順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 社会保障 (社会保険) 制度の体系について理解することができる。

年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解することができる。

公的保険制度と民間保険制度の関係について理解することができる。

内容

[授業計画]

1	社会保険制度体系の中における社会保険の位置づけ
2	社会保険とは何か - その性格
3	社会保険とは何か - その役割と機能
4	給付と負担 - 社会保険方式と税方式とのちがい
5	年金保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
6	年金保険制度の概要 - 給付の種類と内容
7	医療保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
8	医療保険制度の概要 - 給付の種類と内容
9	介護保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
10	介護保険制度の概要 - 給付の種類と内容
11	雇用保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
12	雇用保険制度の概要 - 給付の種類と内容
13	労働者災害補償保険 - その特徴、受給要件、給付対象
14	労働者災害補償保険 - 給付の種類と内容
15	授業のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

授業外学習

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】阿部裕二編『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス 第4版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書については、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	更生保護制度		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、社会福祉士指定科目である。主に、更生保護制度の全体像を学ぶものである。「犯罪と福祉」という重い課題であるが、社会的排除が端的に現れやすい人権問題領域であるだけに、「人権と社会正義」を掲げる社会福祉が果たすべき役割は大きい。

講義では、司法福祉、刑事司法、更生保護法制、その歴史的展開、機構、手続き、対象者、担い手、等の事がらを順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 司法福祉（修復的司法を含めて）・刑事司法・更生保護制度の全体的なつながりを理解することができる。 犯罪を行ってしまった人への社会復帰支援の意味とその重要性を理解することができる。 更生保護制度とその運用全般を理解することができる。

内容	
1	刑事司法、更生保護とは
2	更生保護法とは
3	更生保護の歴史
4	更生保護の対象者と手続き - 非行少年
5	更生保護の対象者と手続き - 犯罪をした人
6	更生保護の具体的方法 - 仮釈放、保護観察等
7	更生保護の具体的方法 - 生活環境の調整、更生緊急保護等
8	更生保護制度の実施機構及び組織
9	更生保護制度の担い手
10	医療観察制度とは
11	他害行為を行った精神障害のある人の社会復帰支援の方法
12	高齢者・障害のある犯罪者の保護
13	就労支援の方法と課題
14	更生保護の今後の課題
15	全体のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、再レポートを提出してもらう。

授業外学習

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所を通読

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】片居木英人『現代の社会福祉をめぐる人権と法』法律情報出版

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じ、授業で随時紹介する。

科目名	社会福祉施設経営論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 福祉サービスの組織と経営と管理運営について理解するため、施設経営者 (理事、施設長) の立場で取り組む科目である。

科目の概要 福祉サービスに係る組織や団体 (主に社会福祉法人)、及び経営管理に関わる集団力学、リーダーシップ理論等について

学修目標 一般企業の経営、管理運営理論の福祉サービスへの応用という視点を身につけること。

内容	
1	福祉サービスにおける組織・経営
2	福祉サービスと制度
3	福祉サービスに関わる地域における組織や団体 1 法人とは
4	福祉サービスに関わる地域における組織や団体 2 社会福祉法人
5	福祉サービスに関わる地域における組織や団体 2 社会福祉法人
6	福祉サービスに関わる地域における組織や団体 3 NPO等その他の法人
7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 1
8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 2
9	福祉サービスの管理運営の方法 1 サービス管理
10	福祉サービスの管理運営の方法 2 人事管理
11	福祉サービスの管理運営の方法 3 労務管理
12	福祉サービスの管理運営の方法 4 会計と財務
13	福祉サービスの管理運営の方法 4 会計と財務
14	福祉サービスの管理運営の方法 5 情報管理
15	まとめ

評価

前半はレポートまたは筆記試験40点、後半は筆記試験60点とし、合計60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】初めて目にする内容が多いため、テキストを一読しておくこと。

【事後学修】テキストにある重要な概念、事項を振り返ること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽、宮城 道子、大山 博幸、栗原 直樹 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」（本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」）との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。

科目の概要

本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。

学修目標(=到達目標)

1. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。
2. 地域福祉の計画策定手法を理解する。
3. ネットワーキングを理解する。
4. 社会資源の活用・調整・開発を理解する。
5. サービス評価について理解する。

内容

1. 地域福祉を推進するために必要なワーカーとは
2. 地域をとらえる
3. 地域理解 アセスメントについて
4. アウトリーチとニーズ把握の方法
5. 地域における社会資源
6. 近隣における支え合い実践事例 ジェノグラム作成
7. 近隣における支え合い実践事例 エコマップ作成
8. ワーカーの関わり
9. ワーカーの視点 ネットワーキング
10. 支援のあり方について(社会資源の活用・調整・開発)
11. 既存サービス以外の支援方法の検討
12. サービス開発
13. サービス評価を含むワーカーの支援の視点と留意点
14. 地域福祉の計画策定手法について
15. まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回の課題作成内容20%、演習における発言及び口頭発表20%、レポート等50%とし、総合

評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すでに学修しているソーシャルワーク論と相談援助演習の内容をふりかえる。基本的なソーシャルワークに関する専門用語を理解しておくこと。

【事後学修】毎時取り組まれる内容を各自でふりかえり、指示される次回への必要な学習について必ず取り組み、テキストや用語辞典でソーシャルワークに関する理解を深める努力をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸、宮城 道子、佐藤 陽、栗原 直樹 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。授業内容は他の相談援助演習の科目とも関連している。本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験を、実習で抽出した事例検討やロールプレイおよびプロセスレコード、インシデント記述等を使った場面の再構成によって、とらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ワークシートを用いた事例検討 1 (ねらいと手順の説明)
3	ワークシートを用いた事例検討 2 (各グループごとにシェア)
4	ワークシートを用いた事例検討 3 (各グループごとにシェア)
5	ワークシートを用いた事例検討報告 4 (全体で報告、質疑)
6	ワークシートを用いた事例検討報告 5 (全体で報告、質疑)
7	ワークシートを用いた事例検討報告 6 (全体で報告、質疑)
8	ワークシートを用いた事例検討報告 7 (全体で報告、質疑)
9	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 1 (説明)
10	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 2 (実施)
11	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成 3 (実施)
12	実習経験と専門知見との関連生成・統合 1
13	実習経験と専門知見との関連生成・統合 2
14	相談援助・ソーシャルワークにおけるキーワードの整理
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述およびインシデント記述のためのワークシートを中間レポートとして評価 (40%) する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める (60%)。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】社会福祉実習で実施した事例検討（ケーススタディ）を見直しておくこと。

【事後学修】授業で浮かび上がったソーシャルワーク上の鍵概念を具体的実践例とともに理解・確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
澤伊三男編集代表『ソーシャルワーク実践事例集』明石書店 2009

科目名	介護と地域		
担当教員名	小川 政博		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

介護実践を行う際に必要な家族力動や住民感情の理解、社会資源把握の視点や活用法を事例を通して学びます。「地域福祉論 ・ 」と関連があります。

科目の概要

これまで理解した「介護」について改めて振り返りつつ、「地域」という概念との関連の理解を深めます。

学修目標（＝到達目標）

実際に介護実践を行う際に必要な地域連携の知識と実践方法の習得と併せて、関係機関担当者にわかりやすく説明できるコミュニケーション・スキルを身につけることを目標とします。

内容

1	今までの学びの振り返り（習得レベルの測定）
2	介護とは何か
3	地域とは何か
4	社会資源とは何か
5	なぜ公的介護か
6	規範意識を理解する
7	家族関係と介護
8	目に見えないものを意識する
9	帰属意識とは
10	集団力動とは
11	本人にとっての価値（生活費の使い方）
12	やりくりする視点（コスト意識）
13	やりくりする視点（介護内容と量）
14	事例演習（ケアプランの作成）
15	まとめ

評価

授業態度60%、試験40%とし、総合評価60点以上を合格とします。合格点に満たない場合でも再試験は行いません。

授業外学習

【事前予習】これまで学んだことを振り返っておいて下さい。

【事後学修】概ね1回で一つのテーマを完結させる予定なので、毎回復習して修了試験に備えてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません。その都度レジユメを配布します。

【参考図書】授業中適宜紹介します。

科目名	生活支援技術展開		
担当教員名	杉浦 史晃		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

支援の対象となる人々の生活をいきいきとしたものにするために、ふれあいや豊かなコミュニケーションがいかに重要なものかを、知識のみならず、様々な演習を通して自分自身の体験として学びます。

科目の概要

介護サービスの目的は、支援の対象となる人々が生きがいを感じながら生きることができるように、生活全体を活性化することです。そのために介護に携わる専門職には、要介護者がやすらぎやふれあいの心地よさを感じ、生活を明るく楽しく過ごせるように支援する視点と、技能が必須となります。本科目では、社会福祉サービスにおけるレクリエーション支援の意味と価値を明らかにするとともに、介護に携わる専門職として身につけるべき、利用者の笑顔や会話、身体運動を引き出すコミュニケーション技法等について演習を織り交ぜながら学びます。

学修目標 (= 到達目標)

- 1- 笑い、笑顔の効用を理解する。
- 2- 豊かなコミュニケーションを実現するための方法を理解し、それを身につける (られるよう努力する) 。
- 3- 介護とはよりよい生活を支援するひとつの方法であることを理解し、その人の社会生活力を引き出すための介護者の働きかけについて探求する。

内容

- 1 ガイダンス ふつうのくらしのしあわせを実現する = ふくし。普通の暮らしの幸せとは？知らない人に介護されたい？人と人が深く知り合っていくために必要な過程とは何か？「何をするか」よりも「誰とするか」を突き詰めると・・・？
- 2 やる気を引き出す脳の仕組み。「楽しい」はどこにあるか？あなたがフローを感じるのはどんなとき？フロー理論を理解しよう。他者の力、関係性の力、集団の力について。
- 3 人と人が「ともにある」とはどういうことか？ 人と人との間の壁とは何か？共感の仕組み、笑いの力、不安や緊張について理解しよう。
- 4 様々な施設、障害形態別のレクリエーション支援の実際、素材研究 1 介護現場の余暇、レクリエーションを検証する。それは本当に必要か？
- 5 様々な施設、障害形態別のレクリエーション支援の実際、素材研究 2
- 6 リハビリテーションや訓練は要介護者の生活に必要なか。利用者のニーズと願い。身体運動へのアプローチ。
- 7 廃用症候群、廃用型認知症を考える。意欲ある生活を支える元気な脳の状態とは？
- 8 認知症のある人に対する支援を探る。説得しない非言語コミュニケーションについて。
- 9 介護者が身につけるべきコミュニケーション技術や人間関係能力を検討する。言語コミュニケーション、会話術について。
- 10 コミュニケーション技術、人間関係能力をさらに深める。
- 11 アセスメント、良いところ探しの技術。ICFの活用。
- 12 様々な施設、障害形態別のレクリエーション支援の実際、素材研究 3。
- 13 様々な施設、障害形態別のレクリエーション支援の実際、素材研究 4。

14 様々な施設、障害形態別のレクリエーション支援の実際、素材研究5。

15 まとめ

評価

筆記・実技試験(40点)、毎時間ごとのふりかえり(30点)、授業態度(30点)を評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】予習というより体調を整えて出席して下さい

【事後学修】授業で学んだ用語をインターネットなどで調べてみよう

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】笑顔を引きだす「ユーキャンの介護レクリエーション大百科」 監修・杉浦史晃 自由国民社(教室で紹介しません)

【推薦書】もっと笑顔を引きだす「ユーキャンの介護レクリエーション春夏秋冬」著・杉浦史晃 自由国民社

【参考図書】完全図解認知症ケア 介護編 著・三好春樹 講談社

科目名	生活支援技術展開		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護は身体や精神に障害があっても、その人らしい生活をできる限り尊重して自立できるように最小限の援助を行うことが基本である。生活支援技術演習 ・ ・ ・ で学んだ生活援助の技術をさらに発展させ、自立を目指す応用介護技術を学ぶ。特に慢性疾患を持ちながら生活している利用者の自己管理や、医療対応の基礎知識および緊急時対応からターミナル期の介護にいたるまでの、必要な知識技術をもち、適切な援助ができることを目指している。

内容

1	ガイダンス
2	内部障害「心臓機能障害」に応じた介護
3	内部障害「呼吸機能障害」に応じた介護
4	内部障害「腎臓機能障害」に応じた介護
5	内部障害「膀胱・直腸機能障害」に応じた介護
6	内部障害「小腸機能障害・肝機能障害・免疫機能障害」に応じた介護
7	障害体験発表
8	医療との連携に必要な「薬の基礎知識」
9	医療との連携に必要な「治療食の基礎知識」医療的ケアの基礎知識
10	医療的ケアの基礎知識
11	緊急時の対応 (身体不調時の観察と対処、応急手当、事故とその対応)
12	終末期の介護 (終末期における介護の意義・目的)
13	臨終時の介護の実際、医療との連携
14	死後のケア、グリーフケア
15	まとめ

評価

学習状況・レポート提出状況 (40%)、ペーパーテスト (60%) により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次回の課題を提示するので、事前に学習しておくこと

【事後学修】講義内容のまとめと、自身の課題としてレポート提出 (全3回)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術 . . . 』 中央法規

【参考図書】適宜紹介

科目名	介護過程展開		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「介護過程」に関する科目の一つである。

科目の概要

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスを提供できるように学ぶ。特に障害者介護における介護過程の展開を理解する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 障害者介護における介護過程の展開について理解する
2. 介護過程の展開について実習等で実践できるようになる

内容

1	介護過程の展開 (障害者) の理解
2	障害者介護における介護過程の視点 生活の自立
3	障害者介護における介護過程の視点 自律とは
4	事例 1 . 介護過程の実際 情報収集
5	事例 1 . 介護過程の実際 アセスメント
6	事例 1 . 介護過程の実際 課題の抽出
7	事例 1 . 介護過程の実際 介護計画の作成
8	事例 2 . 知的障害者支援における介護過程の視点
9	事例 2 . 知的障害者支援におけるケアプラン
10	事例 3 . 介護過程の実際 情報収集とアセスメント
11	事例 3 . 介護過程の実際 課題の抽出
12	事例 3 . 介護過程の実際 介護計画の作成
13	事例 3 . 介護過程の実際 評価と再アセスメント
14	事例研究発表と介護過程総括
15	まとめ

評価

事例発表とレポート 40 点、筆記試験 60 点とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指示された課題について準備する

【事後学修】介護過程について様々な事例を各自またはグループで学び、理解を深める

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉教育委員会「改訂版 楽しく学ぶ介護過程」久美出版

【推薦書】澤田信子等編「介護過程」ミネルヴァ書房

科目名	介護サービス計画		
担当教員名	山本 かの子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、介護支援専門員の作成する介護サービス計画について学ぶ科目です。介護支援専門員の作成する介護サービス計画と各介護サービス事業者が作成する個別サービス計画の関係を理解することにより、介護過程での学びを深めていきます。

科目の概要

介護サービス計画は、居宅サービス計画を中心とします。本科目では、居宅サービス計画を作成するためのアセスメント、サービス事業者が作成する個別サービス計画などについて学びます。

学修目標（＝到達目標）

1. 介護保険制度における居宅サービス計画と個別サービス計画の現状と課題について理解することができる。
2. 居宅サービス計画と個別サービス計画の関係を理解することができる。
3. 居宅サービス計画ならびに個別サービス計画に共通するアセスメントの視点と方法について理解できる。

内容

1	オリエンテーション
2	要介護高齢者の現状
3	要介護高齢者の現状
4	介護保険制度と居宅サービス計画
5	介護保険制度と居宅サービス計画
6	居宅サービス計画の実際
7	居宅サービス計画の実際
8	居宅サービス計画の実際
9	居宅サービス計画の実際
10	居宅サービス計画書の作成（1）
11	居宅サービス計画書の作成（2）
12	居宅サービス計画書の作成（3）
13	居宅サービス計画書の作成（4）
14	居宅サービス計画書の発表
15	まとめ

評価

平常点（1割）、小レポート2回（4割）、期末レポート（5割）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】介護保険制度の復習

自宅に住む利用者への介護サービスの給付方法とサービス内容について予習してください。

【事後学修】介護サービス計画における居宅サービス計画と施設サービス計画との違いを整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。必要に応じてプリント（資料）を配布します。

【推薦書】講義の中で紹介します。

【参考図書】講義の中で紹介します。

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

医療職と連携して医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。

科目の概要

医療的ケアの意義・目的を理解した上で、医療的ケアの基礎的知識を学ぶ内容とする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 医療的ケアの意義・目的を理解した上で、喀痰吸引等の安全な実施、保健医療制度とチーム医療、健康状態の把握、清潔保持と感染予防について理解できる。(知識・理解)
2. 上記1.で修得した内容について説明できる。(思考・技能・実践)
3. 自己学習及びグループ学習を通し、提示した課題に対する解決を行うことができる。(思考・技能・実践)
4. 毎回の授業に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。(態度・志向性)

内容

1	医療的ケアを学ぶために 「医療的ケア」を学ぶ目的
2	医療的ケアを学ぶために 「医療的ケア」「喀痰吸引等」の用語
3	医療的ケアを学ぶために 医療的ケアニーズの増加
4	医療的ケアを学ぶために 歴史的変遷 介護福祉士の定義に追加された「喀痰吸引等」
5	安全な実施 医行為 教育・研修 安全のための実施条件 記録と報告・連携
6	保健医療制度とチーム医療
7	保健医療制度とチーム医療
8	介護における生活支援と介護の倫理
9	健康状態の把握
10	健康状態の把握
11	健康状態の把握
12	健康状態の把握
13	清潔保持と感染予防 感染予防
14	清潔保持と感染予防 消毒と滅菌
15	まとめ

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：10%

2. 筆記試験：90%

総合評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読んできてくこと。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返るとともに、専門用語や疑問点について調べる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『医療的ケア』建帛社，2015年。

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

医療職と連携して医療的ケアを安全・適切に実施できるよう，必要な知識・技術を修得する．

科目の概要

喀痰吸引の基礎知識及び実施手順，経管栄養の基礎知識及び実施手順，医療的ケアにおけるリスクマネジメントを学ぶ内容とする．

学修目標 (= 到達目標)

1. 喀痰吸引及び経管栄養の基礎知識，及び実施手順について理解できる． (知識・理解)
2. 喀痰吸引及び経管栄養の基礎知識，及び実施手順について説明できる． (思考・技能・実践)
3. 自己学習及びグループ学習を通し，提示した課題に対する解決を行うことができる． (思考・技能・実践)
4. 毎回の授業に対し，自ら取り組み，考える態度を持つ． (態度・志向性)

内容

1	「医療を必要とする人への介護」 (筆記試験) の復習 /	清潔保持と感染予防 (2)	演習
2	喀痰吸引概論		
3	喀痰吸引概論		
4	喀痰吸引概論		
5	喀痰吸引概論		
6	喀痰吸引概論		
7	喀痰吸引概論 (筆記試験を含む)		
8	経管栄養概論		
9	経管栄養概論		
10	経管栄養概論		
11	経管栄養概論 (筆記試験を含む)		
12	子どもの吸引		
13	喀痰吸引に伴うケア		
14	?	リスクマネジメント	
15	?	リスクマネジメント	

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：10%

2. 筆記試験：70%

3. 提出物：20%

総合評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、課題レポートを課す。

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読んでくること。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返るとともに、専門用語や疑問点について調べる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『医療的ケア』建帛社，2015年。

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美、平山 純子、川上 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、「医療を必要とする人への介護 ・ 」を単位取得した者のみが履修できる。

1. 医療職と連携して医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。
2. 救急蘇生の演習を行う。
3. 喀痰吸引等の演習評価を行う。

科目の概要

喀痰吸引・経管栄養の実施手順を理解した上で、喀痰吸引等の演習評価を行う内容とする。

学習目標

1. 喀痰吸引・経管栄養の確認試験に合格できる。(知識・理解)
2. 喀痰吸引(口腔内, 鼻腔内)の演習評価に合格できる。(知識・理解)(思考・技能・実践)
3. 毎回の授業に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。(態度・志向性)

内容

1	? 緊急時の対応
2	? 緊急時の対応
3	喀痰吸引概論・経管栄養概論の確認試験 (60点以上を合格とする)
4	喀痰吸引・経管栄養の実施手順の確認 (演習評価の準備)
5	演習 救急蘇生
6	演習評価(1) 喀痰吸引(口腔内)
7	演習評価(1) 喀痰吸引(口腔内)
8	演習評価(1) 喀痰吸引(口腔内)
9	演習評価(1) 喀痰吸引(口腔内)
10	演習評価(1) 喀痰吸引(口腔内)
11	演習評価(2) 喀痰吸引(鼻腔内)
12	演習評価(2) 喀痰吸引(鼻腔内)
13	演習評価(2) 喀痰吸引(鼻腔内)
14	演習評価(2) 喀痰吸引(鼻腔内)
15	演習評価(2) 喀痰吸引(鼻腔内)

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：30%

2. 筆記試験：20%

3. 演習評価の状況：50%

演習評価に合格できることを合格とする。かつ、1.2.3について、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読んでくること。指定のDVDを視聴し、授業準備を行うこと。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自己の課題を確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 『医療的ケア』メヂカルフレンド社，2014年。

推薦書 『医療的ケア』建帛社，2015年。

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美、平山 純子、川上 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、「医療を必要とする人への介護 ・ 」を単位取得した者のみが履修できる。
喀痰吸引等の演習評価を行う。

科目の概要

喀痰吸引・経管栄養の実施手順を理解した上で、喀痰吸引等の演習評価を行う内容とする。

学習目標

1. 喀痰吸引（気管カニューレ内部）、経管栄養（経鼻経管栄養、胃ろう）の演習評価に合格できる。（知識・理解）（思考・技能・実践）
2. 毎回の授業に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ。（態度・志向性）

内容

1	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
2	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
3	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
4	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
5	演習評価（3） 喀痰吸引（気管カニューレ内部）
6	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
7	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
8	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
9	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
10	演習評価（4） 経管栄養（経鼻経管栄養）
11	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
12	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
13	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
14	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）
15	演習評価（5） 経管栄養（胃ろう）

評価

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：50%
2. 演習評価の状況：50%

演習評価に合格できることを合格とする。 かつ、1.2.について、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読んでくること。指定のDVDを視聴し、授業準備を行うこと。

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自己の課題を確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書： 『医療的ケア』メヂカルフレンド社，2014年。

推薦書： 『医療的ケア』建帛社，2015年。

科目名	社会福祉基礎実習		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉の実践現場を学ぶ上での基本的姿勢、基本的態度を形成することを目的とし、社会福祉実習の入門的位置づけである。

内容

- 1 社会福祉の現場を学ぶ上での基本的な姿勢を形成する。
必要な社会的スキル（あいさつ、マナー、身だしなみ等）、実習に参加するための手続き（現場の状況に適した服装や立ち振る舞い等）
- 2 社会福祉を学ぶモチベーションを形成する。
- 3 児童、障害、高齢者の主な分野を理解する。
- 4 福祉施設、行政機関等の概要を理解する。
- 5 利用者とのコミュニケーションについての基礎技術を学ぶ。
- 6 施設等における見学、体験実習を行う。
- 7 将来の実習イメージを形成する。

評価

授業における実習取組態度50%、実習記録30%、及びレポート等20%をもとに評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】最初のオリエンテーションで示すのでよく読んで集中講義および見学実習に参加の事

【事後学修】見学記録をまとめること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学科で作成した「実習の手引き」および各回担当者から資料配布

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	太田 真智子、宮城 道子、大山 博幸、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。この科目は相談援助演習 と連動して進める。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事前学習の成果として実習課題を作成することができる。

内容	
1	オリエンテーション 社会福祉実習への心得
2	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解1
3	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解2
4	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
5	「実習記録ノート」への具体的記述方法と管理の仕方
6	実習課題 (目標) と実習計画作成の方法
7	グループスーパービジョン : 実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 1
8	グループスーパービジョン : 実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 2
9	グループスーパービジョン : 実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 3
10	グループスーパービジョン : 実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 4
11	グループスーパービジョン : 実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 5
12	実習報告会への参加
13	グループスーパービジョン : 実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 6
14	グループスーパービジョン : 実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 7
15	まとめ、実習に向けての確認

評価

事前学習の成果である事前報告書 (40%) や実習後の事後報告書の提出及び実習報告会での報告 (60%) を求める。それらを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助過程について確認すること。自分の関心のある福祉領域の主な施設や機関について確認すること。

【事後学修】作成した実習課題 (目標) や実習計画について再度見直すこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編 『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著 『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	大山 博幸、宮城 道子、佐藤 陽、片居木 英人 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事前学習の成果として実習課題を作成することができる。

内容	
1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
2	相談援助にかかわる知識と技術に関する理解
3	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解1
4	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解2
5	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解3
6	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解4
7	実習課題（目標）と実習計画作成の方法 1
8	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 1
9	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 2
10	「実習記録ノート」への具体的記述方法と管理の仕方
11	個人情報保護と守秘義務の理解
12	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 1
13	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 2
14	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 3
15	まとめ、実習に向けての確認

評価

事前学習の成果である事前報告書（40%）や実習後の事後報告書の提出及び実習報告会での報告（60%）を求める。それらを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助過程について確認すること。自分の関心のある福祉領域の主な施設や機関について確認すること。

【事後学修】作成した実習課題（目標）や実習計画について再度見直すこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編 『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著 『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	大山 博幸、宮城 道子、佐藤 陽、片居木 英人 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事後学習の成果として実習報告書を作成することができ、報告会で報告することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 1
3	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 2
4	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 3
5	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 1
6	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 2
7	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 3
8	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 4
9	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 5
10	グループスーパービジョン：実習報告会のプレゼンテーション準備と指導 1
11	グループスーパービジョン：実習報告会のプレゼンテーション準備と指導 2
12	実習報告会の実施
13	実習全体の振り返り 1
14	実習全体の振り返り 2
15	まとめ

評価

実習後の事後報告書の提出 (60%) と実習報告会での報告 (40%) を求める。それらを総合的に評価し60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】実習中作成した実習記録やケーススタディワークシートを見直しておくこと。

【事後学修】実習報告会の報告書やケーススタディワークシートをはじめこれまでの実習での学習を総括しそれが、今後の

自分の進路においてどのような意義を持つのかを明らかにすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	社会福祉実習		
担当教員名	大山 博幸、佐藤 陽、太田 真智子、富井 友子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。指定された実習施設で各自180時間以上の実習を実施する。相談援助実習指導の科目と関連して学習していく。

相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

実習先での利用者や職員との円滑な人間関係を形成できる。実習中対象となった利用者への支援計画を作成することができる。実習先でのチームアプローチの実際についてとらえその概要を説明することができる。社会福祉士として要請される職業倫理について具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先の経営管理の実際状況について理解し、具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先とその地域の諸社会資源との関連について理解し、説明することができる。

内容

- 1利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- 2利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- 3利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- 4利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護および支援（エンパワメントを含む）とその評価
- 5多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
- 6社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- 7施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- 8当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。

評価

実習指導者による実習評価や巡回時の学生の様子、実習指導者からのコメントを元に総合的に評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】本実習の事前指導科目にあたる相談援助実習指導 に準じる。
- 【事後学修】本実習の事後指導科目にあたる相談援助実習指導 に準じる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編 『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著 『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	介護総合演習		
担当教員名	山口 由美、野島 靖子、宮内 寿彦、二瓶 さやか		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1. 本科目は学科専門科目における「社会福祉実践科目」の選択科目であるが、介護福祉コースの学生は、本科目を履修しなければならない。また、介護総合演習・、介護実習 及び介護実習 -1を単位取得した者のみが履修できる。
2. 介護実習 -1の事後学習、介護実習 -2の事前学習及び事後学習を行う。
3. 授業形態は、講義、教員別の個別指導、グループ別学習等を組み合わせて行う。

科目の概要

1. 介護実習 -1- の事後学習を行う。
2. 介護実習 -2の事前学習、実習中の指導、事後学習を行う。

学修目標 (= 到達目標)

1. 「介護実習 -1- 」の振り返りを行い、振り返り内容を発表・共有し、意見交換することができる。
2. 「介護実習 -2」の事前学習として、実習の概要を理解し、個人調書・実習計画書の作成ができる。また、実習を行うための準備ができる。
3. 「介護実習 -2」の振り返りを行い、振り返り内容を発表・共有し、意見交換することができる。

内容

1	オリエンテーション/介護総合演習 の概要の理解 / 「介護実習 -1- 」の振り返り方法の理解
2	介護実習 -1- : 事後学習
3	介護実習 -1- : 事後学習
4	介護実習 -1- : 事後学習
5	介護実習 -2の概要理解 / 個人調書・実習計画書の作成準備 / 実習配属先の発表
6	卒業生のお話を聞く / 個人調書・実習計画書の作成
7	介護過程展開の復習 / 個人調書・実習計画書の作成
8	ケーススタディの事前学習
9	ケーススタディの事前学習 / 個人調書・実習計画書の完成
10	実習計画書の発表
11	介護実習 -2実習のすすめ方の確認 / 実習の諸注意の確認
12	介護実習 -2 : 帰校日指導
13	介護実習 -2 : 帰校日指導
14	介護実習 -2 : 事後学習
15	介護実習 -2 : 事後学習

評価

授業への参加状況，個人調書・実習計画書の作成，実習に向かう準備状況，実習の振り返り状況により評価し，総合評価60点以上を合格とする．不合格の場合は個別の課題を提示する．

授業外学習

【事前予習】 「介護実習の手引き」を読む．事前に指示された課題に取り組む．

【事後学修】 毎回の授業時に提示する．

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学）

科目名	介護総合演習		
担当教員名	宮内 寿彦、野島 靖子、山口 由美、二瓶 さやか		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

介護福祉士コース必須専門科目。介護総合演習 の履修・単位認定が前提となる。

科目の概要

介護実習 - 2 の実習事後指導を行う。

概要は内容を参照。

学修目標

介護実習報告会で、個別のケーススタディを報告。

内容

1	オリエンテーション ケーススタディ作成
2	介護実習 - 2 全体共有
3	ケーススタディ作成
4	ケーススタディ作成
5	ケーススタディ作成
6	プレゼンテーション技法
7	介護実習報告会の概要と運営
8	実習報告会準備及び資料作成
9	実習報告会準備及び資料作成
10	実習報告会準備及び資料作成
11	介護実習報告会準備報告会会場設営
12	介護実習報告会
13	介護実習報告会
14	介護実習報告会
15	介護実習及び介護総合演習総括

評価

評価 ケーススタディの作成、実習報告会の取り組みとし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指定された学習課題を事前に取り組み、わからない用語、機関名、関連法を確認すること。

【事後学修】授業で行った学習箇所について、担当教員とわからなかった用語、機関名、関連法を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学内作成「実習の手引」・オリジナル資料配付

科目名	介護実習 -2		
担当教員名	山口 由美、野島 靖子、宮内 寿彦、二瓶 さやか		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1. 本科目は学科専門科目における「社会福祉実践科目」の選択科目であるが、介護福祉コースの学生は、本科目を履修しなければならない。また、介護総合演習 ・ 及び介護実習 ・ 介護実習 -1を単位取得した者、並びに介護総合演習を履修中の者のみが履修できる。
2. 厚生労働省告示により定められた「実習施設・事業等()」に該当する実習である。

科目の概要

1. 利用者の介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程を実践する。
2. 入所施設で23日間の介護実習を行う。
3. 原則として、夜勤実習等の変則勤務を経験する。

学修目標 (=到達目標)

1. 利用者個別の状況に応じたコミュニケーションや生活支援技術の方法を学ぶ。
2. 利用者一人の介護過程の展開を通して、介護過程の展開方法を学ぶ。
3. 社会福祉施設・機関の役割及びチームケアのあり方、介護福祉士の職務内容・役割を理解する。

内容

1. 8月～9月に、介護老人福祉施設や介護老人保健施設等で、23日間(184時間)の介護実習を行う。
2. 本学習目標、個人の実習計画書、実習先のプログラム等を踏まえ、各自で毎日の実習目標を設定して介護実習を行う。その際、実習施設の実習指導者による指導や、実習担当教員による巡回指導を受けながら実習を行う。
3. 介護過程の展開については、下記を目安とする。
ただし、実習施設の実習指導者や実習巡回担当教員に相談しながら進める。
 - ・ 1週目の後半には、介護過程を展開する利用者を決定する。既に利用者が決定している場合は、利用者とかかわりながらアセスメント(情報収集、分析)を行う。
 - ・ 2週目は、利用者とかかわりながらアセスメント(情報収集、分析)を行う。
 - ・ 3週～4週目は、アセスメント、介護計画立案、実施を行う。
 - ・ 4～5週目は、介護計画の実施、評価を行う。
4. 実習時間、並びに実習記録の提出時間や提出場所を厳守する。

評価

実習中の学習姿勢，実習記録，本学習目標の到達度，個人の実習計画の到達度等について，実習施設の評価及び担当教員の評価を踏まえて評価し，総合評価60点以上を合格とする．

授業外学習

【事前予習】 学生が作成した実習計画書に沿った事前学習，介護過程の復習を行う．

【事後学修】 実習反省会，実習記録等により実習を振り返り，実習のまとめを行う．

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学）

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

オリエンテーション、今後の予定、レポート課題の提示・自己成長のためのガイドライン傾聴スキルトレーニング、施設見学：全生園

フィールドワークの方法1：インタビューの方法、フィールドワーク：保育園、学童保育

<後期>

傾聴トレーニング、傾聴、回想法実践、傾聴、回想法振り返り、卒業研究の方法、まとめ

年に2回程度ゼミ合宿を行う。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

適宜参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

片居木ゼミはとくに「現代の人権と法を考える」を統一テーマとして、各自関心のある人権問題についてテーマを絞り、立論・意見交換・討論などを通して、卒論準備を進める。

3年次において卒論目次の大方を完成。4年次は個別指導を中心に、目次完成と卒論執筆を進め、その進捗状況の確認を行う。卒論提出後、ゼミ時間に卒業研究報告会を行う。

卒論は製本の予定。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期ではゼミ生一人ひとりが卒業研究のテーマを絞り込むために、ゼミ生の要望に合わせて事業所見学やテーマに沿った学びの場を持つ。その上で自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

1. 役割決め、半年間のゼミ活動について
2. 個別面談
- 3~14. ゼミ生の要望に合わせて設定

(実践活動・映画鑑賞・卒論研究のためのDBの学び・障害に関する理論的な学び等々)

15. 卒論研究について (テーマ・研究動機・目的・研究方法・スケジュール・予定している本や論文紹介等々) 発表

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容についてまとめる

【事後学修】授業内容を復習するとともに、卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	福田 智雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Pクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

ゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	社会調査の応用		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

選択科目であるが、内容的に「社会調査の基礎」を履修したうえで、本科目を履修することが望ましい。

科目の概要

調査テーマを設定し社会調査の企画・実施・結果の分析・報告等のシュミレーションを行う。授業中の発表と討論を重視する。

学修目標 (= 到達目標)

学修目標は以下の通り。1) 社会調査の知識・技法にもとづいて、現代社会を深く理解することをねらいとする。2) 福祉の間接援助技術としての社会福祉調査の特徴を理解する。3) 社会調査の成果と限界を理解する。

内容	
1	社会調査の意義と役割
2	調査テーマの目的と既存データの活用
3	調査テーマの設定
4	調査テーマの発表と討論
5	調査企画書の作成とプレゼンテーション
6	調査票の作成と実施
7	調査票の作成と実施
8	調査票の作成と実施
9	調査結果の集計・分析手順
10	調査結果の集計・とりまとめ方法
11	調査結果のプレゼンテーションと討論
12	調査結果のプレゼンテーションと討論
13	調査結果のプレゼンテーションと討論
14	レポートの作成
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート (15 点) を、150 点満点 (15 X 10 点満点) で計算し、90 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】「社会調査の基礎」で学んだことを復習し、とくに社会調査の技法について理解を深めておく。毎回、60分程度。

【事後学修】講義の進展にともなって課題を進めなければならないので、毎週の復習が大切である。毎回、60分程度。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】社会福祉士の試験問題集

科目名	公的扶助特論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

公的扶助特論は公的扶助論と連関する科目である。低所得者対策と生活保護制度の概要と運用の実際や問題点について理解する。

科目の概要

改正生活保護法、生活保護法、生活困窮者自立支援法それぞれの概要と連関、実際、運用の問題点等を理解する。

学修目標 (= 到達目標)

低所得者に対する支援と生活保護法制度の概要やその実際の在り方について理解することを目標とする。

内容	
1	福祉政策の論点 - 普遍主義と選別主義
2	福祉政策の論点 - 自立と依存
3	社会保障制度体系のなかの公的扶助の位置づけ
4	改正生活保護法成立の時代的背景と概要、その問題点
5	生活困窮者自立支援法成立の時代的背景と概要、その問題点
6	日本国憲法と生存権保障
7	生活保護法の基本原理
8	補足性の原理をめぐる諸問題
9	生活保護の扶助のかたち - 金銭給付と現物給付、及び保護施設
10	生活保護の実施機関とその決定過程
11	被保護者の権利と義務 - 権利を中心に
12	被保護者の権利と義務 - 義務を中心に、生活保護不正受給問題を含めて
13	子どもの貧困対策法成立の現代的背景と概要、その問題点
14	生活保護適正化条例制定の現代的背景と概要、その問題点
15	まとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

授業外学習

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】片居木英人『現代の社会福祉をめぐる人権と法』法律情報出版

【推薦書】授業時、適宜紹介する。

【参考図書】授業時、適宜紹介する。

科目名	人間福祉特論 B (展開)		
担当教員名	片居木 英人、大山 博幸、佐藤 陽、野島 靖子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科教員によるオムニバス講義。現代の福祉について視野を広げ、多様性と総合性の理解を深めることにより、福祉の学びのまとめとなる有益な選択科目である。

科目の概要

社会福祉の体系的理解のための講義を行う。社会福祉関連学会や研究の動向、トピックスについて講義する。

学修目標 (= 到達目標)

福祉専門職に求められる資質を理解し、今後の成長の糧とする。

内容

1	(片居木) オリエンテーション
2	(亀崎) 就学前の保育と保護者支援
3	(亀崎) 就学前の地域子育て支援
4	(亀崎) 就学前の地域子育て支援
5	(佐藤) 地域福祉の視座 - 自らの実践検証による考察から普遍化への試み -
6	(佐藤) 地域福祉実践の醍醐味 - 計画づくりを具体的実践に繋ぐ -
7	(佐藤) 要援護高齢者が主体となる地域で相互に学び合い・支え合う仕組みに関する研究 - 現在
8	(野島) 認知症ケアの歴史
9	(野島) 集団ケアから個別ケアへの流れ ~ グループホームの出現 ~
10	(野島) これからの認知症ケア
11	(片居木) 多様なセクシュアリティと人権
12	(片居木) 基本的人権としてのセクシュアル・ライツ - 性的人格権とは
13	(片居木) 基本的人権としてのセクシュアル・ライツ - 性の権利宣言を中心に
14	(片居木) 売春防止法成立の政治過程 - 公娼制度廃止運動を中心に
15	(片居木) 売春防止法成立の政治過程 - 戦後の売春禁止法獲得運動を中心に、全体のまとめ

評価

授業への参加状況20%、課題レポート80%。

各教員の講義から関心を持ったテーマを選び、レポートを提出する。テーマ担当教員が採点し、評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、再課題により評価する。

授業外学習

【事前予習】紹介された推薦書・参考書を読むこと

【事後学修】講義ごとに示される発展的課題を選択して取り組むこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】科目全体に共通する教科書はなし。テーマに応じて適宜プリントを配布する。

【推薦書】テーマにより、適宜紹介する。

【参考図書】テーマにより、適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉論		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：精神保健分野での、当事者の暮らしや支援の理解に欠かせない社会福祉の学びとして位置付ける。人間が社会的な存在である以上、こどもから高齢者に至るすべてのライフステージで心身の健康が損なわれる可能性がある。社会的な制度の立ち遅れや社会的偏見の歴史から、その原因を探り、支援に係る専門職の役割を学ぶ。中でも第二次世界大戦後、歴史的に形成されてきた当事者こそが「その人」の専門家であるというストレングスモデルの視点を軸に据える。

科目の概要：精神保健福祉の意義、精神障がい者の基礎知識、精神保健福祉の歴史的社会的背景、精神保健福祉制度の概要について理解する。ついで、生活の場及びライフサイクルにおける精神保健福祉のストレングスモデルを活かした実践的役割や多様な支援手法を学ぶ。地域生活支援センターゲスト講師による地域での固有の実践を共有、当事者講師によるその想いや願いに傾聴する場を設ける。関心ある領域に関する最終レポートを作成・発表し全体で共有する

- 学修の目標： 1 精神保健福祉の意義・制度及び歴史的形成過程が理解できる
 2 精神障がい者の疾病とその回復過程が理解できる
 3 リカバリー自身の住む自治体の精神保健福祉政策を理解・評価することができる
 4 日本の精神保健福祉政策を理解・評価・批判することができる

内容	
1	オリエンテーション 映像から考える精神障がい者の人権（1）ホスピタリズムを考える
2	映像から考える精神障がい者の人権（2）パターンリズムと私たち
3	映像から考える精神障がい者の人権（3）脱施設化と精神保健福祉の展開
4	精神疾患と精神保健福祉（1）統合失調症 診断と治療、回復過程
5	精神疾患と精神保健福祉（2）気分障害と自殺予防 地域連携
6	精神保健福祉の発達史
7	地域生活支援の実際（1）リカバリー回復モデルと退院促進
8	中間まとめ
9	地域生活支援の実際（2）ACT 重い障がい者を地域で支える
10	地域生活支援の実際（3）当事者と専門職からのメッセージ（新座地域生活支援センター）
11	精神障がい者の権利侵害を考える～ナチスの障がい者ホロコースト（T4作戦）に学ぶ
12	課題発表と提出について
13	発表（1）
14	発表（2）
15	発表（3）課題提出 振り返り

評価
 授業参加態度 30%、中間評価 20% 最終回評価 50% 60%以上合格 合格点に満たない場合には再試験を行います

授業外学習

「事前予習」 当該章を読み自己課題を作成する

「事後課題」 授業を受け、振り返りシート、または設定された課題をもとにレポートを作成する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野末浩之「こころ・からだ・暮らし」精神障害者の理解と地域支援 萌文社

【推薦書】大熊一夫「精神病院を捨てたイタリア、捨てない日本」岩波書店

藤本豊編「よくわかる精神保健福祉」ミネルバ書房

野中猛「精神障害リハビリテーション」中央法規

DVD「カッコー好の巣の上で」

参考図書は随時授業で紹介します

科目名	ボランティア・コーディネーション		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会福祉展開科目として福祉に関する「ボランティア」を中心にボランティア・コーディネーションの基本をとらえる。

科目の概要

ボランティアの概観から歴史と性格を理解し、推進するための技術としてボランティア・コーディネーション力を、具体的実践事例 (ゲストスピーカー含む) を交えながら理解することを内容とする。

学修目標 (=到達目標)

1. ボランティアについて理解する。
2. ボランティア・コーディネーションについて理解する。
3. ボランティア・コーディネーターの基本姿勢を身につける。

内容

1	ボランティアについて-概観-
2	ボランティアの必要性と意味
3	実際の活動から学ぶ ボランティアグループによる活動
4	実際の活動から学ぶ 社会福祉施設等でのボランティア活動
5	ボランティア活動の内容
6	日本のボランティア活動の歴史
7	ボランティア活動の性格
8	ボランティアの特長
9	ボランティアのとらえ方
10	利己主義と利他主義、ボランティア活動の課題と弱点
11	ボランティアとNPO、ボランティアセンター、ボランティアコーディネーター
12	実際の活動から学ぶ NPO法人ボランティア活動について
13	実際の活動から学ぶ ボランティアコーディネーターについて
14	これからできるボランティア体験について
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー10%、学修目標に関する中間レポート40%、総括レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】ボランティアについて自分の認識を整理出来るように、書籍、テレビ、新聞、雑誌、実際のボランティア活動等の中から選んで事前理解を心がける。

【事後学修】毎回の授業内容を復習して振り返り、示された図書等を読み、関心を持った活動等について更に調べ、学びを発展的に深める努力を心がける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。

その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦書】NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会編「ボランティアコーディネーション力」中央法規、柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論」(株)みらい

科目名	市民活動論		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

選択科目

市民が行う自由な社会貢献活動を促進する法律として特定非営利活動促進法が成立したのは1998年である。多様な生活問題の解決にあたって民間非営利団体 (N P O ・ N G O) の貢献する範囲は広がっている。統計などによって見えている部分のごくわずかであるということから「氷山のようなセクターである」といわれた民間非営利領域、およびその主体である民間非営利団体について、さまざまな議論や実践とともに研究も深まりつつある。多様な非営利団体を対象に、現在の私たちの社会におけるその実態と可能性を検討する。講義だけでなく、受講生全体の参加による議論・検討を重視する。

民間非営利団体の現状をふまえて、社会における市民の役割を理解する。

内容

NPOの活動事例の検討は、履修者の人数および関心に応じて変更する。第6～10週は例を示した。

1	生活主体と公共私領域 - N G O ・ N P O の誕生
2	N P O と非営利革命
3	N P O セクターの国際比較
4	ミッションとプロフィット
5	わが国のN P O を取り巻く制度と環境
6	N P O の活動事例 - 教育・文化・スポーツの分野
7	N P O の活動事例 - 医療・福祉の分野
8	N P O の活動事例 - 地域振興・環境問題の分野
9	N P O の活動事例 - 人権・平和・国際協力の分野
10	N P O の活動事例 - N P O の支援を行なうN P O
11	N P O の多様性とその課題
12	N P O における寄付とボランティア
13	N P O のマネジメント
14	N P O の展開と市民社会の可能性
15	レポート報告と講評

評価

事例発表・討議への参加態度 (30点) 、期末レポート (70点) として採点し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】推薦書を読む。NPOの活動事例に関する情報収集を行う。

【事後学修】他の受講生の報告をふまえ、各自の関心領域以外の非営利活動について理解と関心を深める

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書：NPO研究フォーラム『NPOが開く新世紀』清文社 335.8/N

山内直人編『NPOデータブック』有斐閣 335.8/Y

大畑裕嗣他『社会運動の社会学』有斐閣選書

山岡義典編著『NPO基礎講座』『NPO実践講座』ぎょうせい

目加田説子『行動する市民が世界を変えた』毎日新聞社

長谷川公一編『講座環境社会学・環境運動と政策のダイナミズム』有斐閣

科目名	国際福祉論		
担当教員名	岡田 徹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

社会福祉はこれまで1国家・1国民社会を前提にして生成展開されてきた。ここでは、この前提をいったん取り外し、「地球の見地に立った人間福祉」を考える。

科目の概要

地球世紀（Global century）と呼ばれる21世紀を生きる私たちにとって重要なキーワードはこの科目にある「福祉」と「国際化」である。ここでは社会福祉の中で最も創発的な領域である国際福祉の理論と実践を取り上げる。ここでは先進国型の「福祉」と途上国型の「開発」を包摂する概念として「人間福祉」を提起する。人間福祉とは、＜いのちと存在＞の基底にとどく福祉のことであり、これには「《美》と《魂》」および「《悲》と《愛》」の力添えが要る。

学習目標

- 1）事前にレジュメを配布するので、予習を欠かさないこと。
- 2）事後に授業内容を振り返って理解すること。
- 3）上記の2点を通して、自分の関心や専門研究に関連させて意見表明ができるように努めること。

内容

授業の進め方：毎回、講義レジュメを事前に配布する。映像教材を用いる。毎授業時に小レポートを課す。

進行計画

1. なぜ今「国際福祉」か（意義）
2. 国際福祉とは何か（定義）
3. 国際福祉の生成展開過程（歴史）
4. 国際福祉の実践課題 1 難民問題
5. 同 上 2 HIV・エイズ問題
6. 同 上 3 在日外国人問題
7. 同 上 4 <南>の貧困問題
8. 同 上 5 バングラデシュの村落および都市開発
9. 国際福祉の理論課題 1 国際福祉の存立根拠 脱主権国家化、グローバル・ミニマム、地球市民社会
10. 同 上 3 「福祉と国家」の再定義
12. 福祉の人間的基礎 1 《美》《魂》
13. 福祉の人間的基礎 2 《悲》《愛》
14. 授業の振り返り
15. まとめ

評価

ペーパーテスト（40点）、毎授業時のリアクション・レポート（30点）、授業に対する意欲・関心・態度（30点）。
総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 講義レジュメを読んでおくこと。不明な点や意見があれば、次回の授業時に質問されたい。

【事後学修】 授業後、不明な点が解明されたかどうか振り返り確認し、さらに疑義や意見があれば次回の授業で表明できるようにまとめておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 教科書は使用しない。「講義レジュメ」を事前に配布する。

【参考図書】 1. 岡田徹他編 『コミュニティ福祉学入門』 有斐閣 2005年. 2. 岡田 徹「国際社会福祉の歴史的動向」（中村優一・一番ヶ瀬康子編『国際社会福祉』（「世界の社会福祉」第12巻、旬報社、2000年2月、23～82頁） 3. 岡田 徹「魂を透過した《美》たちへの旅 もうひとつの福祉」（立教大学『コミュニティ福祉学研究紀要』第13号、2011年3月、221?268頁） 4. 岡田 徹「福祉と開発の人間の基礎 魂を透過した《美・悲・愛》たちへの旅」（『明治大学心理社会学研究』第11号2016年3月）

科目名	ケア論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ケアリングの理論とそれに関連する思想の理解を深める。対人援助職の基本姿勢、態度の形成を目的とする意味では本授業は社会福祉基礎科目として位置づけられる、本科目は社会福祉の ケア及びケアリングの概念について理解を進め、対人援助職におけるケア及びケアリングの思想の意義を探究していくことをねらいとする。またケアリングと癒し (ヒーリング) の関連についても考察する。 ケアリング概念について説明記述でき、ケアリングそれに関連するテーマや思想的背景について独自の意見を述べるができる。

内容

1	オリエンテーション
2	各定義・概念の整理：ケアの語源、関連する概念
3	根源的なケア経験、ケアの動機 (ロロ・メイ、鷺田を例として)
4	メイヤロフのケアリング論 (概要)
5	メイヤロフのケアリング論 (展開1)
6	ケアと共感：ロジャーズのカウンセリング理論
7	ケアと共依存：依存症、アダルトチルドレン、人格障害
8	ケアと共依存：恋愛依存
9	事例から学ぶケア1：看護
10	ケアと死：広井のターミナルケア論から
11	事例から学ぶケア2：ターミナルケア (キューブラロス、ミンデル)
12	ケアリングとスピリチュアリティ：エドワード・カンダの理論から
13	ケアリングとヒーリング：ケイローンの神話から
14	ケアする人の成長
15	まとめ

評価

授業中のミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】広辞苑や英和辞典でケア (care) の辞書的意味やその語源を調べておく。

【事後学修】メイヤロフのケアの定義について確認し、授業で関心を持ったケアに関連する概念について調べまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】日本ホリスティック教育協会 吉田敦彦・守屋治代・平野慶次編『ホリスティック・ケア 新たなつながりの中の看護・福祉・教育』せせらぎ書房

【推薦書】

ロロ・メイ 『愛と意志』 誠信書房

メイヤロフ 『ケアの本質』 ゆみる出版

鷺田清一 『聴くことの手』 阪急コミュニケーションズ

広井良典 『ケア学』 医学書院

科目名	福祉住環境論		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 様々な実習を経験する直前、直後の授業に受けることが望ましい授業である。実習での経験を、一過性のものにするのではなく、住環境の支援技術について当事者として考察する。毎回、コンピュータを用いた知覚心理実験を行うため、コンピュータに対する極端な拒絶反応がないことが望ましい。

科目の概要 日常生活における住環境を考える上で、生活者の視点に立つことの重要性を理解する。特に、感覚、知覚の中でも視覚を取り上げ、生活者の視覚の観点から住環境を支援するための技術を学ぶ。視覚に関する、福祉学的考察、生活学的な考察、心理学な考察、言語学的な考察を行う。視覚が中心であるが、聴覚、触覚に関しても必要に応じて取り上げる。

学修目標 (= 到達目標) 日常生活における生活者の視覚の重要性に興味を持ち、その視点から住環境を改善することを常に意識するようになることを目標とする。

内容

1	オリエンテーション
2	視覚心理学的な考察を行う。
3	視聴覚の相互作用の面から考察を行う。
4	タイポグラフィーなど、読みに関する言語学的な考察を行う。
5	視覚を学ぶためには、色の物理学的な知識がどうしても必要である。その初歩を学ぶ。
6	視覚を学ぶためには、色の数学的な知識もどうしても必要である。その初歩を学ぶ。
7	ランドスケープについて学ぶ。
8	画像の機械認識を学ぶ。
9	動画の機械認識を学ぶ。
10	日常生活における視覚の重要性について考察する。
11	日常生活、特に公共機関の視覚環境の問題点を発見、改善する。
12	日常生活、特に機器の視覚環境の問題点を発見し、改善について考察する。
13	学内の視覚環境について、考察する。
14	視覚と手話との関係について考察する。
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート (15 点) を、150 点満点 (15 X 10 点満点) で計算し、90 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】日常生活における道具、建物の観察。1時間

【事後学修】自分の作成したレポートと他者のものとの比較を行う。1時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】野島久雄（訳） 誰のためのデザイン 新曜社

科目名	レクリエーション援助法		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、人と人との出会いや人とのつながりにおいて、とても意味のある科目です。特に、社会福祉サービスにおいてレクリエーションの果たす役割は大きく、注目されています。ここでは、必要とされるレクリエーションの意味と、人々への日常的な楽しさや心地よさを提供する、援助者としての役割について学んでいきます。また、援助者が身につけるためのコミュニケーション技術としてアイスブレイキングやホスピタリティ (心地よさ・人間関係能力) を演習します。これらは、介護コースの科目であるレクリエーション活動援助法につながる、基本的な学修と言えます。また、人間福祉学科専門科目のレクリエーション援助論と、同時開講となるため、理論についても学修していきます。

学修目標は、下記の5点です。

1. 人と人との出会いの喜びを体験し、コミュニケーションを深める。
2. レクリエーションは、健康づくりをはじめ社会福祉や教育、地域づくり、環境に至るまでの幅広い領域で活用されていることを理解し、援助者としての役割を学修する。
3. ノートやファイルなどを有効に活用し、資料作成を行うと共に、毎時間ごとのふりかえりや記録をとることの重要性を理解する。
4. レクリエーションにおけるホスピタリティについて理解し、声かけや態度・行動を身につける。
5. コミュニケーション技術に必要な素材やアクティビティを体験し、人前で提供出来るようになる。

内容	
1	はじめまして 出会いの喜び アイスブレイキングの体験プログラム
2	レクリエーションの意義
3	レクリエーションと社会福祉について
4	レクリエーションの支援 利用者と援助者のあり方について
5	福祉レクリエーション援助のプロセス
6	福祉レクリエーション援助のための技術と方法 アクティビティの実際
7	援助者のためのコミュニケーション技法
8	個別レクリエーション援助の立案と方法
9	集団を介したレクリエーション援助の方法
10	レクリエーション援助におけるホスピタリティの重要性
11	地域とレクリエーションの取り組み
12	プログラム計画と展開法
13	対象に合わせたプログラム作り
14	プログラムのアレンジ法
15	まとめ

評価

課題・レポート20% 演習発表20% 筆記試験40% 授業態度20% 60点以上を合格とします。合格点に満たな

かった場合は、再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】毎回、レクリエーションアクティビティの資料を配布するので、予習しておく。

【事後学修】いつでも人前で、アクティビティが提供できるよう、練習しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は、特に使用しない。必要に応じてプリントを配布。

推薦書 福祉士養成講座編集委員会編集 新版 介護福祉士養成講座 第3版 レクリエーション活動

援助法 中央法規出版 (財)日本レクリエーション協会監修 福祉レクリエーションシリ

ーズ 全3

巻 中央法規出版

ホスピタリティをみかく本 ホスピタリティトレーニング研究会 遊戯社

参考図書 レクリエーション支援の基礎 財団法人 日本レクリエーション協会

その他必要に応じて、随時教室で紹介する

科目名	介護基礎（入門）		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

介護福祉士養成課程以外の学生が、選択科目として、介護の知識と基本的な介護技術を学ぶ科目である。介護に関心がある学生や、高齢領域や障がい領域への実習を希望している学生に履修してほしい科目である。

科目の概要

高齢や障がいにより支援が必要な人が、主体的にいきいきと暮らしていくために、支援者が身に付けておくべき知識と技術を学ぶ。年齢特性や障がい特性に応じた生活支援技術を学ぶ。

学修目標

1. 利用者主体の介護を理解できる。
2. 利用者の尊厳を支える生活支援プロセスを習得する。
3. 環境の整備、食の支援、身じたくの支援に関する技法を習得する。

内容

1	ガイダンス 介護福祉の基礎
2	介護実習室とは
3	ベッドメイキングの実際
4	高齢者の理解
5	高齢者疑似体験
6	障がいがある人の社会参加の支援
7	車いす体験と介助方法
8	食の支援 支援が必要な人の食事とは
9	食の支援 嚥下食と食事介助の方法
10	身じたくの支援とは
11	衣服の選択と着脱の方法
12	視覚に障がいがある人への支援
13	移乗介助の理解
14	排せつ介助の理解
15	まとめ

評価

授業への取り組み 20点、レポート 20点、筆記試験 60点とし、総合評価 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】予定表に基づきテキストをよく読んでおく。演習内容により服装・持ち物が異なるので、事前に確認、準備をする。

【事後学修】配布された資料をノートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柴田範子編 介護福祉士養成テキストブック「生活支援技術」ミネルヴァ書房

【推薦書】井上千鶴子編 介護福祉士養成テキストブック「介護の基本」ミネルヴァ書房

科目名	福祉機器論		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

日常生活でなくてはならない道具，文房具から建物，街並みまでの使いにくさを考察する．人間科学では人間を対象にする．工学では，高機能，高性能といった道具の技術的発展が中心となる．福祉機器論では，道具と人間の両方を視野に入れる点が異なる。

科目の概要

社会がどのように発展し，便利になろうとも，高齢者や障害者が取り残されてしまうことが多々ある．弱者となりやすい人々のために，自分が何ができるのか，日常生活が考えるきっかけとなることを実感してほしい．福祉実習室にて実施予定である．

学修目標 (= 到達目標)

弱者の立場に立って道具を考察する力を養う．

内容

1	オリエンテーション
2	道具とは何か
3	視覚
4	聴覚
5	触覚
6	文房具を対象にした考察
7	学内を対象にした考察
8	ホームページを対象にした考察
9	図書館を対象にした考察
10	実習室を対象にした考察
11	移動手段を対象にした考察
12	道具の試作 (1)
13	道具の試作 (2)
14	道具の試作 (3)
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート (15 点) を、150 点満点 (15 X 10 点満点) で計算し、90 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】日常生活における道具の観察。1時間

【事後学修】自分の作成したレポートと他者のものとの比較を行う。1時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】野島久雄（訳） 誰のためのデザイン 新曜社

科目名	ユニバーサルデザイン論		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 日常の道具の使いやすさを対象にする福祉機器論よりも、対象を情報機器に分野を絞った科目になる。また、心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

科目の概要 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。本科目では、特にマニュアルを取り上げ、有効なマニュアルの条件について考察したい。

学修目標 わかりやすく、読んでみたくなる、具体的なマニュアルを作成したい。実際に作成する過程で、わかりやすい表現をすることが難しいことを理解してほしい。弱者の立場に立ってものを見る視点を養いたい。

内容

1	オリエンテーション
2	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (1) 情報の部分性
3	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (2) 言語
4	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (3) 記憶
5	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (4) 情報検索
6	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (5) 視覚
7	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (6) 聴覚
8	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (7) 触覚
9	情報機器を使うことの難しさ (1) ヒューマンエラー
10	情報機器を使うことの難しさ (2) ユーザが自分の責任にしがちである現状
11	情報機器を使うことの難しさ (3) メニュー、アイコン、専門用語
12	情報機器を使うことの難しさ (4) 学習の停滞
13	情報機器を使うことの難しさ (5) プロダクションパラドックス
14	マウスやキーボードの使い方を説明する、実際のマニュアル作成をする
15	まとめ

評価

毎回提出してもらうレポート、150点満点 (15回X10点満点) で、90点以上を合格とする。

授業外学習

事前準備 日常生活における道具の観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

プリントを配布する

推薦書かつ参考図書 野島久雄（訳） 誰のためのデザイン 新曜社

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間福祉学科専門科目の社会福祉展開科目に位置づけられている。また、社会福祉主事任用資格取得に関連した科目である。他学科開放科目としている。

科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を発揮し、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復を図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

学修目標：

1. リハビリテーションの理念が理解できる。
2. 障がいの受容プロセスが理解できる。
3. ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とQOLが理解できる。
4. 心理的な側面でのリハビリテーションの役割が理解できる。
5. 学生である今の立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明できる。

内容

1	リハビリテーションとは
2	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン
3	障がいの概念とリハビリテーション
4	障がいの受容過程
5	ライフサイクルとQOL
6	死別とグリーフワーク
7	子どものリハビリテーション 子どもの障がいの基礎知識
8	子どものリハビリテーション 脳性麻痺
9	子どものリハビリテーション 発達障がい (広汎性発達障がい)
10	子どものリハビリテーション 発達障がい (学習障害と注意欠陥/多動性障害)
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症
13	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群
14	地域におけるリハビリテーション
15	リハビリテーションのまとめ

評価

授業への参加状況（10%）、レポート（20%）、筆記試験（70%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各単元について、教科書を事前に読んでおきましょう。また、障がい者支援に関連したTV番組を見るようにしてください。

【事後学修】各単元終了後に、学生という立場でできることは何であるのか、考えまとめておきましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには 』 中央法規 492.9/R

科目名	家族生活論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間福祉学科専門科目「社会福祉関連科目」のうち2年次以上配当選択科目である。

科目の概要

生活の基本単位である家族という小集団と、そこでの人間関係の特徴を理解する。家族は、男女が結婚することによってつくり、子どもの誕生によって成員を増やし、やがて子どもが独立することで規模を縮小し、最後は老夫婦のいずれか一方の死によって消滅するという、ライフサイクルを持っている。ライフサイクルのそれぞれのライフステージには、それぞれの生活課題がある。近年、わが国では未婚晩婚化、晩産化が進み、ライフサイクルの平均像が大きく異なっている。本科目では、家族形成のあり方、家族の構造と機能について、その基本的な捉え方を学ぶとともに、その今日的な変化を実証的に確認する。

学修目標

家族という小集団の構造と機能、夫婦関係および親子関係について、社会調査のデータから客観的に論じられる力を身につける。

内容	
1	家族の捉え方 1：家族の定義
2	家族の捉え方 2：家族と世帯
3	家族の形態 1：核家族
4	家族の形態 2：家族の種類と分類
5	家族の形態 3：家族構成の変化
6	結婚 1：異性交際と配偶者選択
7	結婚 2：結婚の意味と機能
8	結婚 3：結婚の変化
9	家族の発達 1：家族のライフサイクル
10	家族の発達 2：ライフサイクルの変化
11	家族の内部構造 1：家族の役割構造と勢力構造
12	家族の内部構造 2：家族の情緒構造
13	家族の機能 1：子どもの社会化
14	家族の機能 2：老親扶養
15	総括

評価

授業時の課題30点、学期末試験70点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学内ネットワークの授業用フォルダに置いてあるワークシートで予習する。

【事後学修】ワークシートの解答を確認して、学期末試験に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

湯沢雅彦・宮本みち子（2008）『新版 データで読む家族問題』NHKブックス。

野乃山久也編（2009）『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社。

佐藤博樹・永井暁子・三輪 哲編（2010）『結婚の壁 - 非婚・晩婚の構造』勁草書房。

森岡清美（2012）『「無縁社会」に高齢期を生きる』佼成出版社。

科目名	生活構造論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

社会福祉学科専門科目「社会福祉関連科目」の2年次以上配当選択科目である。

科目の概要

生活とコミュニティ（地域社会）について、生活構造論からアプローチする。そもそも生活とは多義的な概念であるため、生活構造論は多様である。しかしその基本は、個人または家族の生活状況から社会構造を捉え直そうとする、つまり生活者（個人や家族）の主体性に着目している点で共通している。都市化・産業化によって人々の生活水準は向上したが、それは格差社会をつくりだすことにも繋がった。また、生活の質についてはどうであろうか。この科目では、官庁統計や社会調査のデータを用いて、生活者が置かれている生活状況（生活水準、生活時間、生活空間、生活関係）を確認するとともに、地域社会における生活者の主体形成のありかたを考察する。

学修目標

生活者（個人や家族）の主体性に着目し、生活者の生活状況から社会構造を捉えなおす、生活構造論の基本を学ぶ。官庁統計や社会調査データから生活構造を読み解く力を身につける。

内容

1	生活構造 1：生活構造論とは
2	生活構造 2：生活の指標
3	生活水準 1：家族周期と家計構造
4	生活水準 2：消費行動とライフスタイル
5	生活水準 3：階層・階級と格差社会
6	生活時間 1：生活時間の構造
7	生活時間 2：ワークライフバランス
8	生活空間 1：過疎問題
9	生活空間 2：開発と住民運動
10	生活空間 3：都市問題
11	生活関係 1：自治会・町内会
12	生活関係 2：社会的ネットワーク
13	生活関係 3：ボランティア活動
14	生活関係 4：commonsとまちづくり
15	総括

評価

授業時の課題50点、学期末のレポート50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時の課題提出のために準備する。

【事後学修】授業時の課題を復習して、学期末レポートの作成に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

三浦典子、森岡清志、佐々木 衛 編（1986）『生活構造』（リーディングス日本の社会学5）東京大学出版会。

堤マサエ、徳野貞雄、山本 努 編著（2008）『地方からの社会学』学文社。

科目名	家族と労働法		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

女性の家庭生活および職業生活に関わる法律を取り扱います。具体的には民法家族法（親族・相続）の基礎を学び、働く女性を取り巻く環境と法律・制度との関わりについて検討することになります。

科目の概要：

現代の日本社会においては、個人の価値観が多様化し、それに伴い家族生活も多様化しています。これは夫婦別姓、シングルマザー、離婚の増加に現れている通りです。また、少子高齢化の進行は今までにない新しい家族の問題を生んでいます。子のない夫婦の養子縁組や生殖補助医療で子どもをもつことには、親子についての法的な課題も生じます。認知症で判断力の弱った高齢の親の財産関係については、新しく成年後見制度が設けられました。また、家庭を持ちながら働く上でライフ・ワーク・バランスという考え方も注目されてきています。女性が家庭生活と職業生活を営む上で法律の果たす機能と、課題についても考察します。

学修目標

この授業では、家族法の基礎知識の習得をし、現代の職業人が家族生活を営む上で課題をめぐる法制度状況について理解を深めることを目的とします。また、知識取得のみならず、適宜事例について検討し、各自が意見を書いたり、演習問題を解くことを通じて論理的思考力や課題解決力の養成も目指します。

内容

1	家族問題と法
2	婚姻と法
3	婚姻と財産
4	離婚と法
5	離婚と財産と子ども
6	親子
7	内縁と認知
8	家族法の現代的問題
9	氏と戸籍
10	扶養・成年後見
11	相続 相続人と相続財産
12	相続 法定相続
13	遺言・遺留分
14	働く女性と法
15	総括

評価

提出物・受講態度（40点）、ペーパーテスト（60点）を総合して評価します。

100点満点中60点が単位取得の下限です。

授業外学習

【事前予習】課題（授業中指示された課題、資料を読む等）の準備をする

【事後学修】学んだことを踏まえ、家族と法の課題について関心と理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

資料等は適宜配布する。

【教科書】 開講時に指示

【参考書】 『家族の法[第3版]』 利谷信義（有斐閣）

『デイリー六法』（三省堂） その他の六法も可

科目名	生活と政治行政		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

政治行政、ネットと世論などに関わる基礎知識を日本の課題などの時事問題に関連付けながら学ぶ

科目の概要

政治的決定のルール、行政のしくみ、インターネットが世論、民主政治にどのような影響を与えるか、時事問題などを学ぶ。現在の課題(例えば、景気問題、少子高齢化と福祉の問題、財政赤字、憲法改正、原発再稼働、TPP、安全保障など)がどのように決められていくか、どのように決めていくべきかを考える。

学修目標(=到達目標)

現在の日本の課題を題材として政治行政、インターネットと民主政治の基礎知識を修得するのみでなく、その知識を生かしてものごとを把握する力、解決策を論じる力を身につけることを目標とする

内容

- 1 ガイダンス 現在の日本を取り巻く諸問題と政治行政、ネットと世論
- 2 現代日本政治の諸問題 安部首相の目指すもの-積極的平和主義、戦後レジームからの脱却、安全保障、国際協力、憲法改正
- 3 現代日本政治の諸問題 景気対策とアベノミクス、消費税増税と財政赤字、参議院選挙
- 4 財政赤字と諸問題 財政赤字、福祉国家論と小さな政府、財政危機と社会保障、地方自治体と社会保障
- 5 政治のしくみ-国会・内閣、議院内閣制・大統領制、行政のしくみ-中央省庁・地方自治体の役割
- 6 政策決定システム 選挙と政権交代、与党と野党、官僚制度、長期政権と1年で交代する政権の違い
- 7 政策決定システム 法律・予算ができるまで
- 8 前半まとめ
- 9 メディアと世論 世論とは、マスメディア、インターネット
- 10 SNSと世論 フェイスブック、ミクシィ、電子掲示板
- 11 インターネットと選挙 マスメディアと選挙、「ネット選挙」解禁、ネットの影響力、ネット選挙と法規制
- 12 ネットによる世論形成の問題点 誹謗中傷、エンブレム問題に見る「正義の鉄槌」、受けるための極論、当事者による世論操作、国家・政府の検閲、世論操作、コントロール
- 13 ネット世論と個別課題-憲法改正、原発再稼働、アベノミクス、ネットと政策評価
- 14 ネット世論の限界と可能性-匿名性と責任、政治行政のプレイヤーへの影響、情報発信による影響力-ウィキリークス・ウィキペディア、ネットメディア、個人の情報発信
- 15 後半まとめ

評価

小試験と課題など(70%)、平常点(30%)の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に予告された授業内容、政治行政に関連する論点・時事問題等について予習する

【事後学修】授業で学習した論点・内容について調べ、それらについての自分の意見・考え方をまとめる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

レジュメ・資料などを配布する。

【推薦書】堀江湛『政治学・行政学の基礎知識 第3版』一藝社

岩井奉信『立法過程』東京大学出版会

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指点字などの基礎を理解します。

学修目標 (= 到達目標)

NP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容	
1	あいさつの表現
2	家族に関する表現
3	日時に関する表現
4	指文字 (ア ~ サ行)
5	名前に関する表現
6	指文字 (タ ~ 八行)
7	趣味に関する表現
8	指文字 (マ ~ ワ行)
9	地名に関する表現
10	自己紹介
11	表現力・実技試験
12	動物に関する表現
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による実技試験 (50%)、学修目標に基づく筆記試験 (40%)、通常の授業態度 (10%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと

【事後学修】授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

科目名	障害者の心理学		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

障害の状態にある人の機能的制約は、環境によって異なるため、環境因子の一つとして、適切な支援を行うことは極めて重要です。本科目は、これまで学んできた知見を踏まえて適切な支援を行うための学習を通し、自らの生き方を考える科目です。

科目の概要：

各障害の診断基準および心理学的特徴に関して学習します。各障害の特徴に配慮した支援の在り方について受講者とともに考えていきます。

学修目標 (= 到達目標)：

1. 障害の理解。
2. 各障害の診断基準及び心理学的特徴の理解。
3. 上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援の理解。

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 障害とは
- 3 自閉^ス外^ム症児・者の心理学的特徴と支援 (1)
- 4 自閉^ス外^ム症児・者の心理学的特徴と支援 (2)
- 5 限局性学習症児・者の心理学的特徴と支援
- 6 注意欠如/多動症児・者の心理学的特徴と支援
- 7 知的発達症児・者の心理学的特徴と支援
- 8 視覚障害者・聴覚障害者・言語障害者の心理学的特徴と支援
- 9 肢体不自由者・重度重複障害者・病弱者の心理学的特徴と支援
- 10 精神障害者の心理学的特徴と支援
- 11 各障害児・者の心理学的特徴と支援のまとめ
- 12 グループ発表 (1)
- 13 グループ発表 (2)
- 14 グループ発表 (3)
- 15 まとめ

評価

100点満点中、日常点 (課題提出・小テスト・授業態度・発表など) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

授業外学習

【事前予習】講義予定の教科書あるいはプリントの該当ページを予め読んでおいてください。

【事後学修】講義終了時に毎回課題を出しますので、それに基づいて当該講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著(2015)『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	中高年期の心理学		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格

本科目は、現在の我が国における、中高年期の人々が直面している諸課題について、その問題を自らに引き寄せて、実感を伴った「想いを馳せる」作業を行うように設計されている。特に、女子学生が受講することを前提に、女性であるからこそ、これから来る自らの中年期と高齢期の生活を、どのように過ごし得るのかに関し、将来的に有用な手掛かりになることを目指して開講する。

2. 科目の概要

現在の我が国には、さまざまな不利益を被りながら生活している人々が存在する。その不利益の原因は、経済的なものであったり、何らかの障害を心身に持つことであったり、特定の視点からみた場合に少数派であることであったりと多様である。本科目は、このような前提にたち、中年期と高齢期に、様々に直面する課題について、具体的な題材を手掛かりに、自らの在り方を内省する作業を通し、その現実への対処方策を、それぞれの未来に向けて獲得することを目的とする。

3. 学修目標

本科目は、1) 中年期と高齢期の特徴的な変化が社会的な不利益に結びつく構図とはどのようなものであるのか？、2) そのような不利益を被りながら生活する中高年者本人はどのような想いをもちながら生活しているのか？、3) 社会的な不利益を被りがちな中高年者に対して我々が専門家としてまた市民として成し得ることは何なのか？、の3点の獲得を、学修の目標とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について、ペアワークを通して主体的かつ能動的に言語化しながら考えることから、学習をスタートする。次に、ペアワーク（言語化された双方向の意味世界共有）により得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。

なお、各開講回別に取り上げる題材のテーマ・内容は、以下の通りである。

1	ガイダンスと「中高年期の生活の概要」：我が国の中高年期の生活の概要
2	「幼少期に発病することと支え合う想い」：小児病棟における子ども同士のかかわりあい
3	「幼児虐待・児童虐待と自分」：児童虐待に苦しむ加害者の痛み
4	「児童労働と自分」：途上国に於ける児童労働の現実と家族内での親に対する役割期待
5	「優性思想と自分」：優性思想とハンセン病回復者に対する断種手術の現実
6	「パートナーシップと自分」：ハンセン病回復者の家族へのあり方
7	「貧困と教育と自分」：貧困により生ずる教育機会の格差
8	「家族との関係と役割期待」：「理想の家族幻想」に苦しむ日常
9	「障害児を出産することと自分」：障害を持つ子どもを出産した母親の嘆き
10	「里親制度と血縁の意味と自分」：自動的に血縁対象を愛するようになるものなのか？
11	「女性に対する差別と自分」：インドの中流階級における「結婚持参金殺人」の現実
12	「我が国の老老介護の現実と自分」：我が国の介護現場の現実
13	「不妊治療・生殖医療の現実と新たな生命」：中年期の晩婚親側の論理と生命倫理

14	「代理出産ビジネスの現実と経済的格差による女性の尊厳への搾取」：経済的誘惑の実情
15	学習のまとめ：「暴力の連鎖と自分（非暴力・市民的不服従の観点から）」

評価

成績は、平常点と期末レポートにより評価する。平常点とは、講義中の『ペアワークへの取り組み姿勢』と『毎回の小レポートの内容』を指す。成績評価の基準は、合計100点満点を、『平常点(ペアワークへの取り組みと毎回の小レポート)』が70点(「5点/回」×14講義回=70点)、『期末レポート』が30点、の構成にて配点し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 次回の講義内容に関し、事前に発想を深めてほしいポイントを提示し、講義回当日のペアワークの基礎とする予習を課します。

【事後学修】 毎講義内に提示する題材について、教員が示した論点から題材を振り返る課題を課します。「振り返り」の結果は、毎回「小論文形式のレポート」にて提出を求め、評価に含めます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の雑誌に事前に目を通しておくことが望まれる。

「Days Japan 2008年6月号（特集：処分されるペットたち）」

「Days Japan 2008年9月号（特集：結婚させられる少女たち）」

「Days Japan 2009年5月号（シオラレオネ出産の悲劇ほか）」

「Days Japan 2009年10月号（特集：カンボジア地雷探知犬が救う命）」

科目名	家族心理学		
担当教員名	大野 祥子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

乳幼児期～成人に至るまでの個人の発達プロセスについては、既に学んでこられたことと思います。世代の異なる家族メンバーが、家族という関係の中でどのように出会うのか、ともに生活する中で、どのように関係を作り、どのように発達していくかについて考えます。

科目の概要

この科目では、現代の家族問題について考えます。ジェンダーを主要な切り口に、家族心理学の知見に触れながら、親子関係や夫婦関係など、家族という人間の営み・家族関係にまつわる心理が、いかに社会文化的に規定されているものであるかを理解してほしいと思います。

学修目標 (= 到達目標)

1. 家族メンバー間の人間関係のダイナミクスを理解する視点を養う。
2. 家族という関係は、ジェンダーや社会・文化、時代と深く関わっていることを理解する。
3. 自分の家族体験や家族観を相対化する視点を持つ。

内容

1	近代家族イメージの成立 (テキスト1, 3, 4章)
2	現代の家族 (テキスト2, 5, 6, 7章)
3	現代女性のライフコースと家族 (テキスト21章)
4	育児ストレスとは何か (映像資料視聴)
5	育児ストレスはなぜ起こるか (テキスト18章)
6	家族役割分担 (テキスト8, 9章)
7	日本の夫婦関係 (テキスト10, 11章)
8	性別役割分業とワーク・ライフ・バランス (テキスト12, 13章)
9	家族ストレス (テキスト29章)
10	現代の親子関係 (テキスト14, 15章)
11	親子関係の発達 (テキスト14, 15, 16, 17章)
12	家族システム論 (テキスト23, 25章)
13	家族カウンセリング (テキスト20章)
14	新しい家族のかたち (テキスト27, 28, 30章)
15	まとめ

評価

授業内での提出物（感想のコメントペーパー含む）60%，最終課題40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストからその回の内容に該当する章（「内容」欄参照）を読み，わからない用語を調べ，図表の読み取りをしておくこと。その他に準備してほしいことがある場合は前の回に指示する。

【事後学修】テキストの該当章と授業ノートをふり返り，授業内容を理解したか確認すること。自分の意見はどうかを考えること。授業中に紹介された参考資料にあたり，発展的な学習をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待[第2版]』ミネルヴァ書房

【推薦書】柏木恵子『子どもが育つ条件』岩波新書

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学』有斐閣ブックス

【参考図書】授業中に紹介します。

科目名	対人社会心理学		
担当教員名	塩田 伊都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会心理学の中でも、特に他者との関係や相互作用に注目した科目である。

科目の概要

対人社会心理学とはなにか (講義1)

恋愛関係を主とする親密な関係の構造と進展 (講義2,3,4,5)

他者とのコミュニケーション (講義6,7,8,9,10)

他者への行動 (講義11,12,13,14)

学修目標 (= 到達目標)

人間関係についての心理学的な知識を身につけ、更にその知識を現実場面で応用できるようにすることを学修目標とする。

- ・親密な他者の関係を客観的に見られるようにする。
- ・他者とのコミュニケーションについての知識を身につけ、その知識に基づく行動を現実場面でとれるようにする。
- ・攻撃や排斥のような他者を傷つける行動と援助やサポートのような他者を助ける行動に影響する要因を理解する。

内容

1	対人社会心理学とは何か
2	親密な関係の構造
3	親密な関係の発展
4	親密な関係の葛藤
5	親密な関係の崩壊と喪失
6	自己開示と自己呈示
7	ソーシャルスキル：話を聴く
8	ソーシャルスキル：自分を主張する
9	要請承諾
10	説得
11	攻撃
12	排除
13	援助
14	サポート
15	まとめ

評価

各テーマごとの課題 (30%)、試験 (70%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

ただし1/3以上の欠席は単位不認定とする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱うテーマについて、興味のある点を見つけ出す。

【事後学修】レジユメを読み返し、学習内容を理解する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示する

【参考図書】セレクション社会心理学 サイエンス社

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の中の集団に関する研究領域を取り上げる。よって社会心理学概論の知識を基礎とする。また他の社会心理学領域の科目とも関連があり、特に産業・組織心理学との関連は密接である。

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。

集団研究の方法、知識を身につけると共に、集団における人間の心理について理解を深め、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点も持てるようになることを目標とする。

内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

- (1) 集団とは何か
- (2) 集団の形成過程
- (3) 集団の構造
- (4) 集団規範
- (5) リーダーシップ
- (6) 集団意思決定
- (7) 集団と個人
- (8) まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする

授業外学習

- 【事前予習】次に取り上げる内容について書籍、検索などを使って自分で調べてくる
- 【事後学修】学習内容についてノートを整理し、復習する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	福田 智雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（=到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究作成のための指導。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究のテーマを設定できる。研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査 (調査表作成、フィールドワークなど) の実施。構成の明示 (あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など) 。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。